令和７年度
北九州市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査
報告書

令和８年３月

北九州市保健福祉局

目　次

第１章　調査の概要

1.　調査の目的 …… 1
2.　調査対象者 …… 1
3.　調査件数 …… 1
4.　調査方法 …… 1
5.　調査項目 …… 1
6.　調査期間 …… 1
7.　回収状況 …… 1
8.　調査の企画・実施等 …… 1
9.　集計・分析上の留意事項 …… 2

第２章　回答者の属性

1.　性別 …… 3
2.　年齢 …… 3
3.　家族構成 …… 3
4.　介護・介助の状況 …… 4
5.　暮らし向き …… 4

第３章　調査結果

1.　からだを動かすことについて
(1)　運動器の機能 …… 5
(2)　転倒リスク …… 7
(3)　閉じこもり傾向（① 閉じこもり） …… 9
(4)　閉じこもり傾向（② 外出回数の減少） …… 11

2.　食べることについて
(1)　低栄養の傾向 …… 13
(2)　咀嚼（そしゃく）機能 …… 15
(3)　義歯の有無と歯数 …… 17
(4)　孤食の状況 …… 19

3.　毎日の生活について
(1)　認知機能 …… 21
(2)　手段的日常生活動作（ＩＡＤＬ） …… 23

4. 地域での活動について
(1) 社会参加活動（① ボランティアグループ） 25
(2) 社会参加活動（② スポーツ関係のグループやクラブ） 27
(3) 社会参加活動（③ 趣味関係のグループ） 29
(4) 社会参加活動（④ 学習・教養サークル） 31
(5) 社会参加活動（⑤ 介護予防のための通いの場） 33
(6) 社会参加活動（⑥ 老人クラブ） 35
(7) 社会参加活動（⑦ 町内会・自治会） 37
(8) 社会参加活動（⑧ 収入のある仕事） 39
(9) 地域づくりへの参加意向（参加者として） 41
(10) 地域づくりへの参加意向（企画・運営（お世話役）として） 43

5. たすけあいについて
(1) 心配事や愚痴（ぐち）を聞いてくれる人 45
(2) 心配事や愚痴（ぐち）を聞いてあげる人 47
(3) 看病や世話をしてくれる人 49
(4) 看病や世話をしてあげる人 51

6. 健康について
(1) 主観的健康観 53
(2) 主観的幸福感 55
(3) うつ傾向 57
(4) タバコの習慣 59
(5) 現在治療中の病気等（① 全体） 62
(6) 現在治療中の病気等（② 高血圧） 63
(7) 現在治療中の病気等（③ 脳卒中（脳出血・脳梗塞等）） 65
(8) 現在治療中の病気等（④ 心臓病） 67
(9) 現在治療中の病気等（⑤ 糖尿病） 69
(10) 現在治療中の病気等（⑥ 筋骨格の病気（骨粗しょう症、関節症等）） 71
(11) 現在治療中の病気等（⑦ がん（悪性新生物）） 73

7. 認知症にかかる相談窓口の把握について
(1) 認知症の有無 75
(2) 認知症に関する相談窓口の認知度 77

【参考】令和４年度調査との比較（一般高齢者・要支援高齢者別、性別、年齢別） 79

【参考】調査票 99

第１章　調査の概要

１．　調査の目的

要介護状態になる前の高齢者について、要介護状態になる各種のリスクの発生状況や、各種リスクに影響を与える日常生活の状況などを把握し、日常圏域ごとに、地域の抱える課題を特定することを目的とする。

２．　調査対象者

北九州市内在住の65歳以上の高齢者（令和7年10月1日時点）

３．　調査件数

6,000件　［一般高齢者　（要介護・要支援認定を受けていない）：　3,000件
要支援高齢者（要支援認定を受けている）　：　3,000件］

４．　調査方法

調査票を郵送で配布し、記入後に郵送で回収する「郵送調査法」

５．　調査項目

「身体活動、食生活、日常生活、地域活動、相互扶助、健康状態」など、
厚生労働省が示す調査項目（35項目）。

６．　調査期間

令和7年11月 21 日（金）～令和7年12月19日（金）

７．　回収状況

回答数：3,953件（回答率：65.8%）　［一般高齢者　：　2,021件（回答率：67.3%）
要支援高齢者：　1,932件（回答率：64.4%）］

８．　調査の企画・実施等

・調査企画及び分析：　北九州市保健福祉局介護保険課

・調査実施及び集計：　株式会社プラスアドグループ

9.　集計・分析上の留意事項

・各比率は小数点第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合がある。

・複数回答可の設問では、合計が100%を超える場合がある。

・クロス集計表では無回答を含まない項目があるため、
内訳の合計が全体の回答者数と一致しない場合がある。

・日常生活圏域について
住民が日常生活を営む地理的範囲として、人口、交通事情、既存施設、サービスの整備状況等を踏まえ設定された区域。北九州市では、以下の24圏域を設定している。

表1-1 北九州市の日常生活圏域

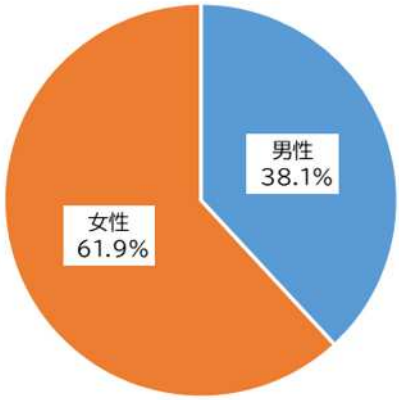
日常生活圏域	小 学 校 区（目安）
門司 1	大積、白野江、柄杓田、松ケ江北、松ケ江南
門司 2	田野浦、港が丘、小森江(旧小森江東)、門司中央、東門司海青
門司 3	小森江（旧小森江西）、大里東、大里南、大里柳、西門司、萩ケ丘、藤松
小倉北 1	足原、霧丘（小倉南区を除く）、桜丘、寿山、富野
小倉北 2	足立、貴船、小倉中央、三郎丸、中島、藍島、城野（小倉南区を除く）
小倉北 3	到津、井堀、中井、西小倉、日明、高見（八幡東区を除く）
小倉北 4	泉台、今町、清水、南丘（小倉南区を除く）、南小倉
小倉南 1	朽網、曽根、曽根東、田原、貫、東朽網
小倉南 2	葛原、高蔵、沼、湯川、吉田
小倉南 3	横代、若園、城野（小倉北区を除く）、北方、霧丘（小倉北区を除く）
小倉南 4	守恒、徳力、広徳、企救丘、志井、長尾、南丘（小倉北区を除く）
小倉南 5	長行、合馬、市丸、新道寺、すがお
若松 1	赤崎、くきのうみ、小石、深町、若松中央、藤木
若松 2	青葉、江川、鴨生田、高須、花房、二島、ひびきの（八幡西区を除く）
八幡東 1	祝町、枝光、高槻、高見（小倉北区を除く）、槻田、ひびきが丘
八幡東 2	大蔵、河内、皿倉、花尾（八幡西区を除く）、八幡
八幡西 1	赤坂、浅川、医生丘、折尾東、本城、光貞、ひびきの（若松区を除く）
八幡西 2	永犬丸、永犬丸西、折尾西、則松、八枝
八幡西 3	青山、穴生、熊西、竹末、萩原、引野
八幡西 4	黒畑、黒崎中央、筒井、鳴水、花尾（八幡東区を除く）
八幡西 5	大原、上津役、塔野、中尾、八児
八幡西 6	池田、香月、楠橋、木屋瀬、千代、星ヶ丘
戸畑 1	あやめが丘、戸畑中央、中原
戸畑 2	一枝、大谷、鞘ケ谷、天籟寺、牧山

第２章　回答者の属性

１．性別

	回答者数	構成比率
男性	1,507	38.1%
女性	2,446	61.9%
全体	3,953	100.0%

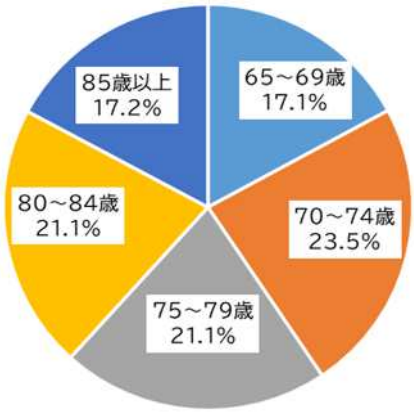
図2-1 性別



２．年齢

	回答者数	構成比率	配布数
６５～６９歳	676	17.1%	1,024
７０～７４歳	928	23.5%	1,412
７５～７９歳	836	21.1%	1,238
８０～８４歳	834	21.1%	1,243
８５歳以上	679	17.2%	1,083
全体	3,953	100.0%	6,000

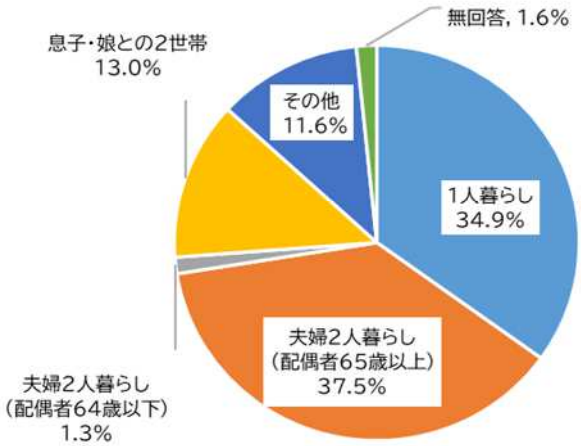
図2-2 年齢



３．家族構成

	回答者数	構成比率
1人暮らし	1,381	34.9%
夫婦2人暮らし（配偶者６５歳以上）	1,484	37.5%
夫婦2人暮らし（配偶者６４歳以下）	53	1.3%
息子・娘との２世帯	514	13.0%
その他	457	11.6%
無回答	64	1.6%
全体	3,953	100.0%

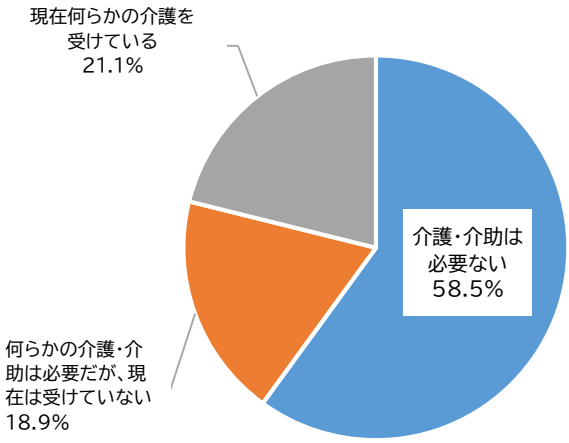
図2-3 家族構成



4．介護・介助の状況

	回答者数	構成比率
介護･介助は必要ない	2,309	58.5%
何らかの介護･介助は必要だが、現在は受けていない	729	18.4%
現在何らかの介護を受けている	815	20.6%
無回答	100	2.5%
全体	3,953	100.0%

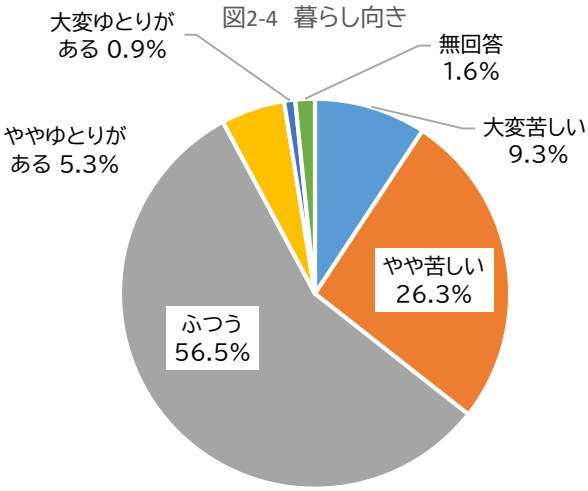
図2-4　介護･介助の状況



5．暮らし向き

	回答者数	構成比率
大変苦しい	367	9.3%
やや苦しい	1,041	26.3%
ふつう	2,235	56.5%
ややゆとりがある	209	5.3%
大変ゆとりがある	37	0.9%
無回答	64	1.6%
全体	3,953	100.0%

図2-4　暮らし向き



第３章　調査結果

１．からだを動かすことについて

（１）運動器の機能

「運動器機能の低下している高齢者」の割合は、

- ■ 全体では、37.8%となっている。
- ■ 一般・要支援別にみると、一般高齢者が 15.3%、要支援高齢者が 61.3%で、要支援高齢者が 46.0 ポイント高くなっている。
- ■ 性別にみると、男性が 29.7%、女性が 42.8%で、女性が 13.1 ポイント高くなっている。
- ■ 年齢別にみると、年齢層が上がるにつれて割合が高まる傾向にある。
  - ・85 歳以上が 63.8%で、最も高くなっている。
  - ・前期高齢者が 21.4%、後期高齢者が 49.0%となっている。

※「運動器機能の低下している高齢者」の判定は、国の手引きに基づき、表 3-1 に示す設問に基づき実施した。

図 3-1-①　運動器の機能　【全域】

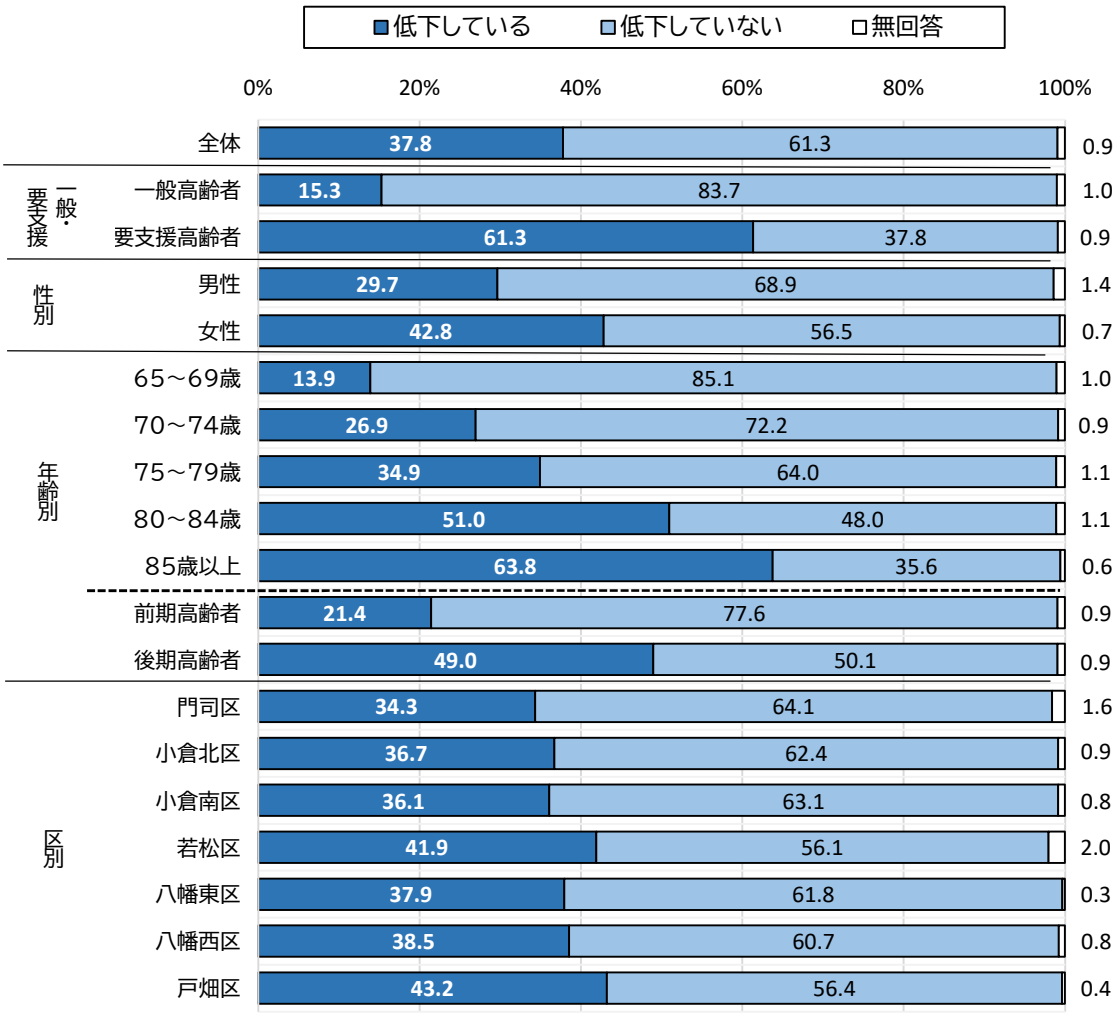


図 3-1-②　運動器の機能　【日常生活圏域別】

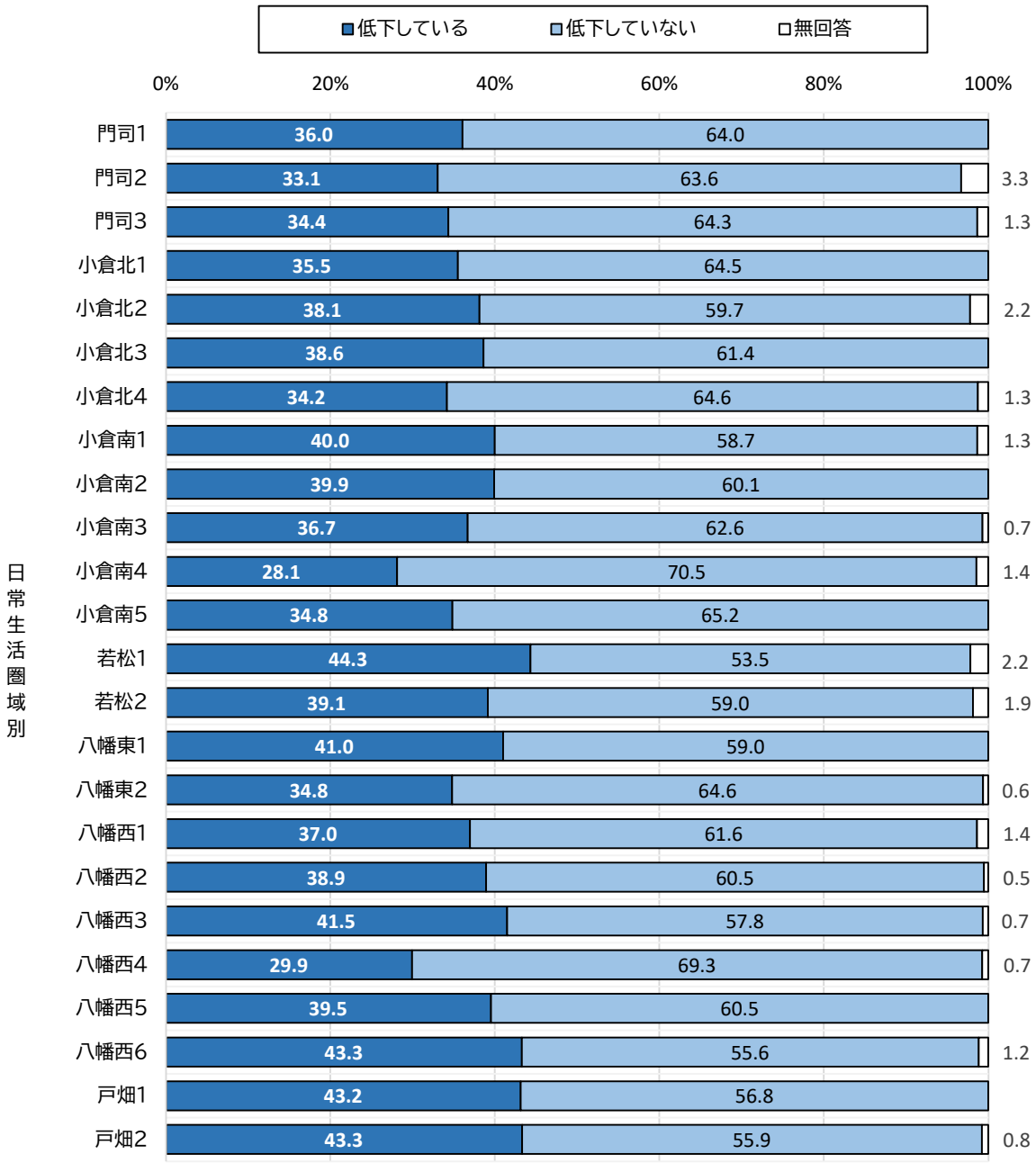


表3-1判定に用いた設問と判定基準（運動器の機能）

設問		対象選択肢	判定基準
問2-Q1	階段を手すりや壁をつたわらず昇っていますか	・できない　（1点）	3点以上が、運動器機能の低下している高齢者
問2-Q2	椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	・できない　（1点）	
問2-Q3	15分位続けて歩いていますか	・できない　（1点）	
問2-Q4	過去1年間に転んだ経験がありますか	・何度もある ・1度ある　（1点）	
問2-Q5	転倒に対する不安は大きいですか	・とても不安である ・やや不安である　（1点）	

（2）転倒リスク

「転倒リスクのある高齢者」の割合は、

- ■ 全体では、44.7%となっている。
- ■ 一般・要支援別にみると、一般高齢者が 32.0%、要支援高齢者が 58.0%で、要支援高齢者が 26.0 ポイント高くなっている。
- ■ 性別にみると、男性が 43.5%、女性が 45.4%で、大きな差はみられない。
- ■ 年齢別にみると、年齢層が上がるにつれて割合が高まる傾向にある。
  - ・85 歳以上が 58.3%で、最も高くなっている。
  - ・前期高齢者が 35.2%、後期高齢者が 51.2%となっている。

※「転倒リスクのある高齢者」の判定は、
国の手引きに基づき、表 3-2 に示す設問に基づき実施した。

図 3-2-①　転倒リスク　【全域】

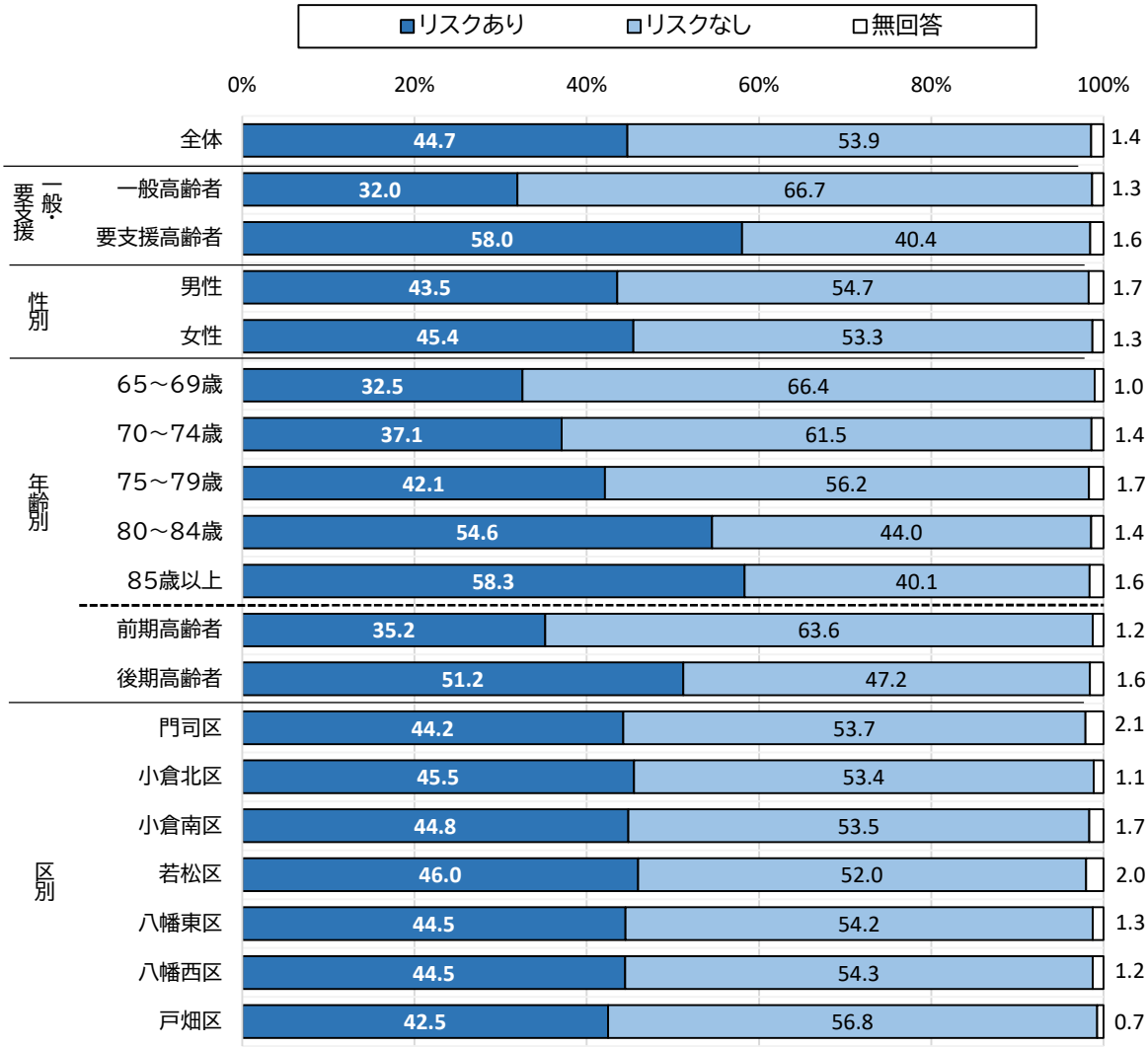


図 3-2-② 転倒リスク 【日常生活圏域別】

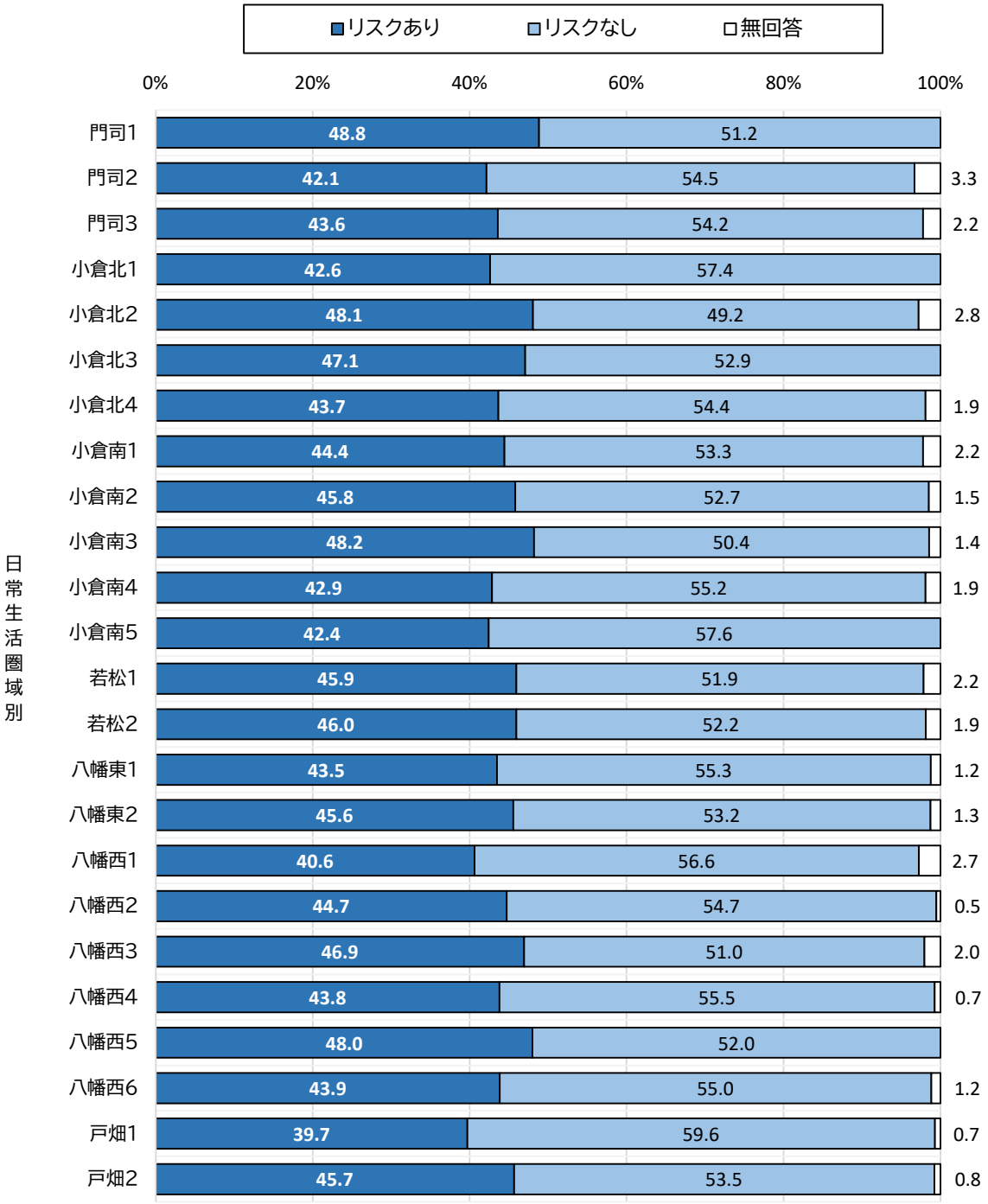


表3-2判定に用いた設問と判定基準（転倒リスク）

設問		対象選択肢	判定基準
問2-Q4	過去1年間に転んだ経験がありますか	・何度もある ・1度ある	対象選択肢が回答された場合が、転倒リスクのある高齢者

（3）閉じこもり傾向（① 閉じこもり）

「閉じこもり傾向のある高齢者」の割合は、

- ■ 全体では、27.1%となっている。
- ■ 一般・要支援別にみると、一般高齢者が 17.4%、要支援高齢者が 37.2%で、要支援高齢者が 19.8 ポイント高くなっている。
- ■ 性別にみると、男性が 24.0%、女性が 28.9%で、女性が 4.9 ポイント高くなっている。
- ■ 年齢別にみると、年齢層が上がるにつれて割合が高まる傾向にある。
  - ・85 歳以上が 45.1%で、最も高くなっている。
  - ・前期高齢者が 16.6%、後期高齢者が 34.2%となっている。

※「閉じこもり傾向のある高齢者」の判定は、
国の手引きに基づき、表 3-3 に示す設問に基づき実施した。

図 3-3-①　閉じこもり傾向　【全域】

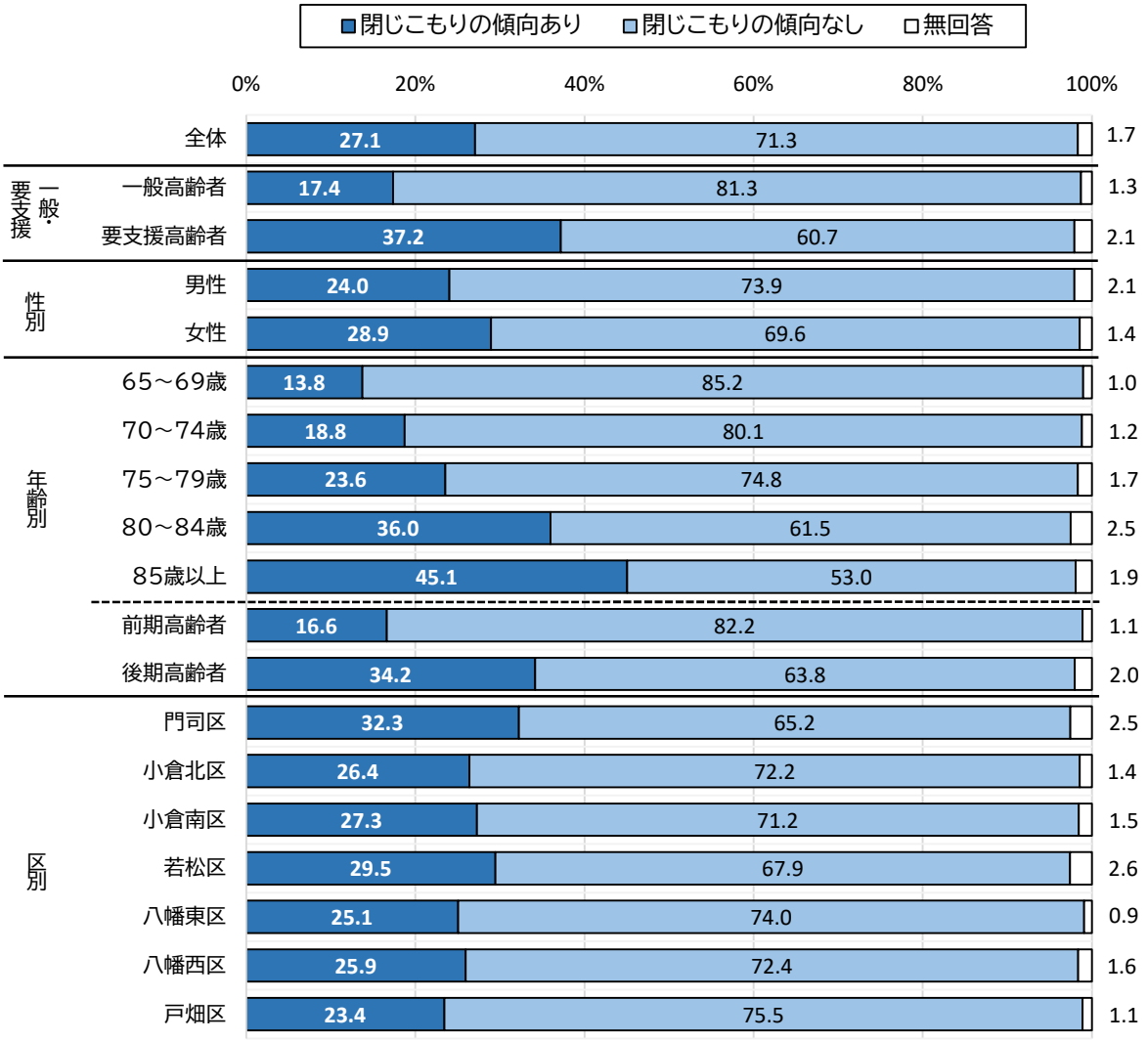


図3-3-②　閉じこもり傾向　【日常生活圏域別】

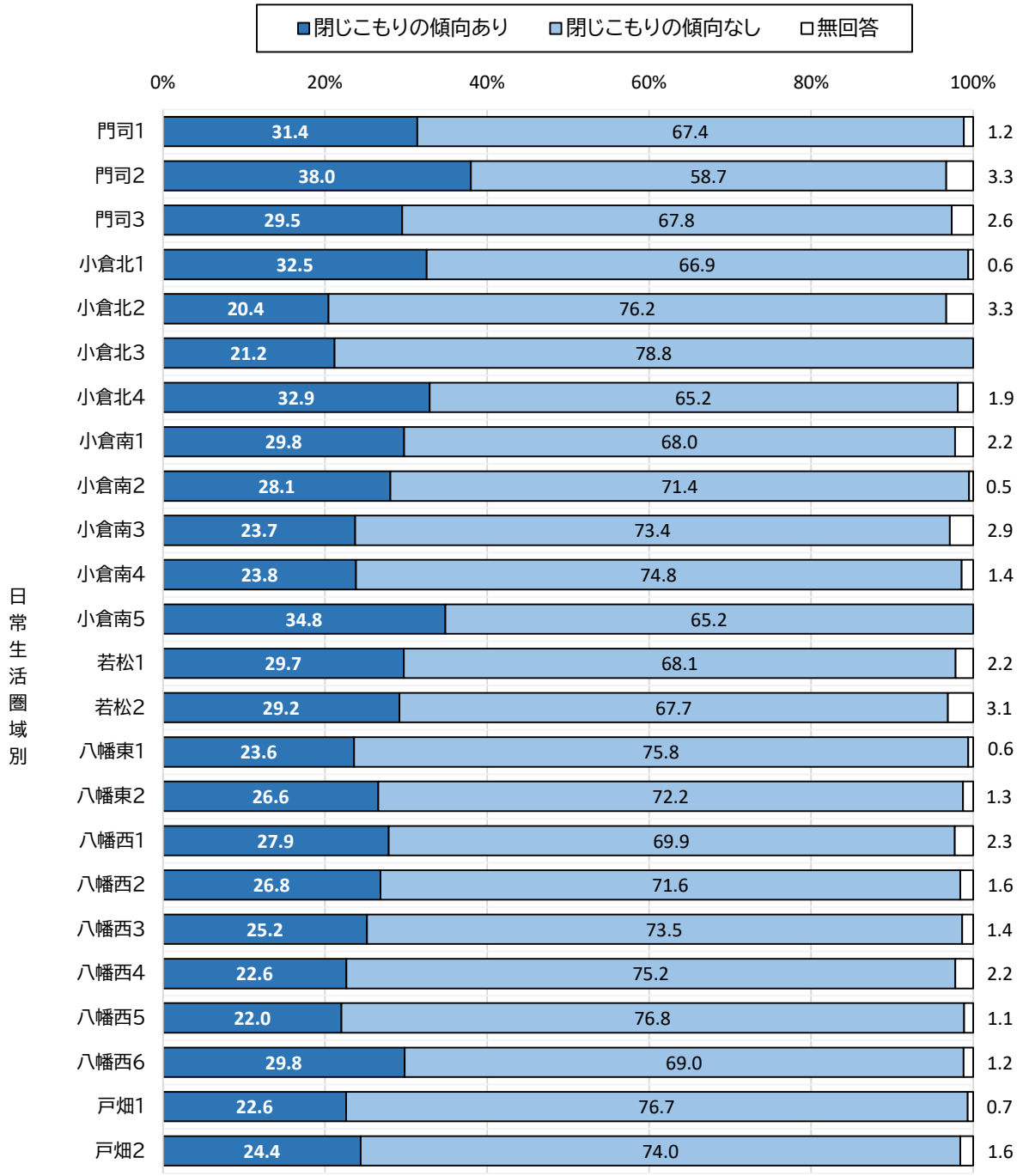


表3-3判定に用いた設問と判定基準（閉じこもり傾向）

設問		対象選択肢	判定基準
問2-Q6	週に1回以上は外出していますか	・ほとんど外出しない ・週1回	対象選択肢が回答された場合が、閉じこもり傾向のある高齢者

（4）閉じこもり傾向（② 外出回数の減少）

問２-Ｑ７　　昨年と比べて外出の回数が減っていますか。

「昨年と比べて外出の回数が減っている」と回答した割合は、

- ■ 全体では、44.8%となっている。
- ■ 一般・要支援別にみると、一般高齢者が 28.1%、要支援高齢者が 62.3%で、要支援高齢者が 34.2 ポイント高くなっている。
- ■ 性別にみると、男性が 40.3%、女性が 47.5%で、女性が 7.2 ポイント高くなっている。
- ■ 年齢別にみると、年齢層が上がるにつれて割合が高まる傾向にある。
  - ・85 歳以上が 65.8%で、最も高くなっている。
  - ・前期高齢者が 29.9%、後期高齢者が 55.0%となっている。

図 3-4-①　外出回数の減少　【全域】

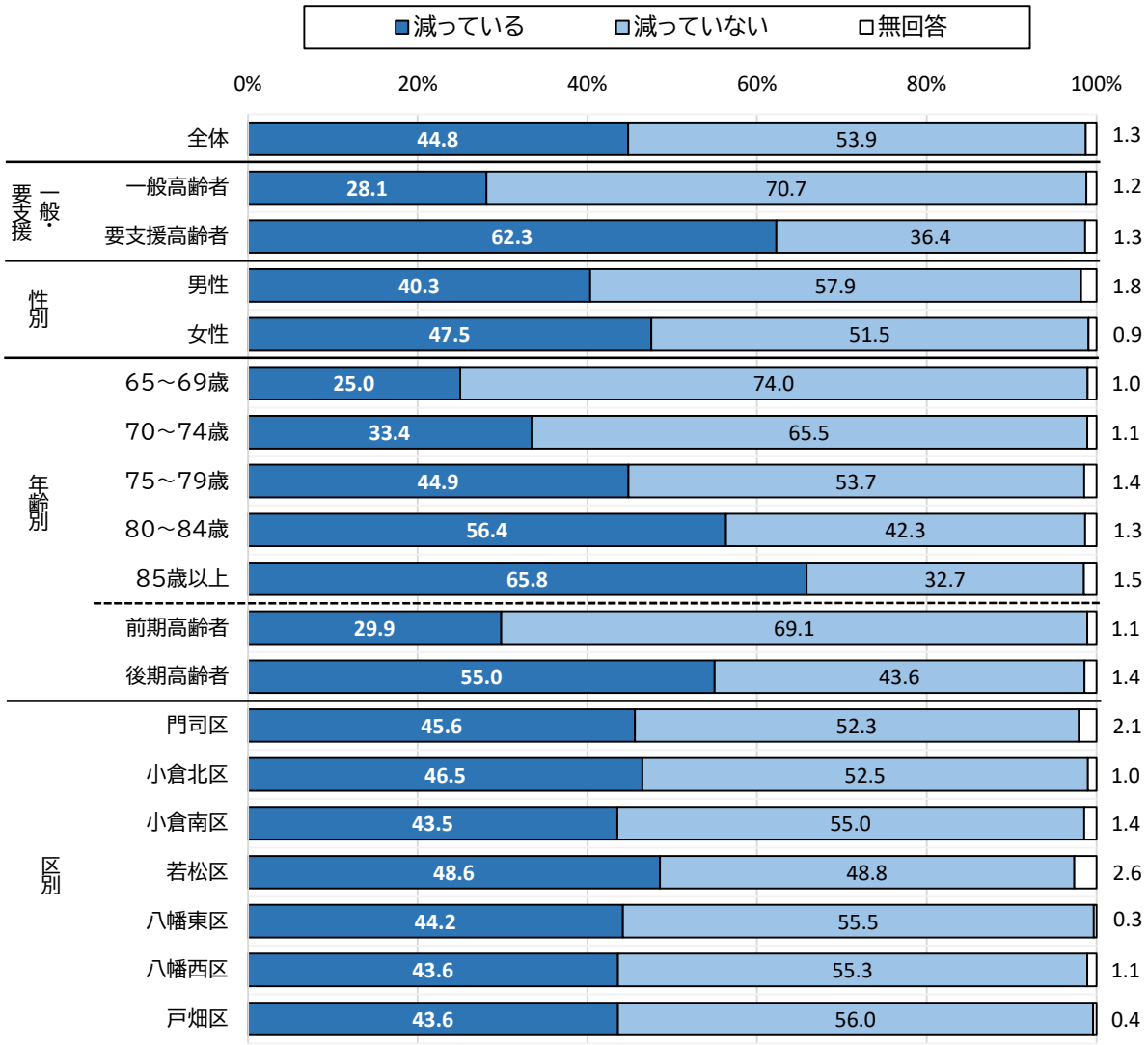
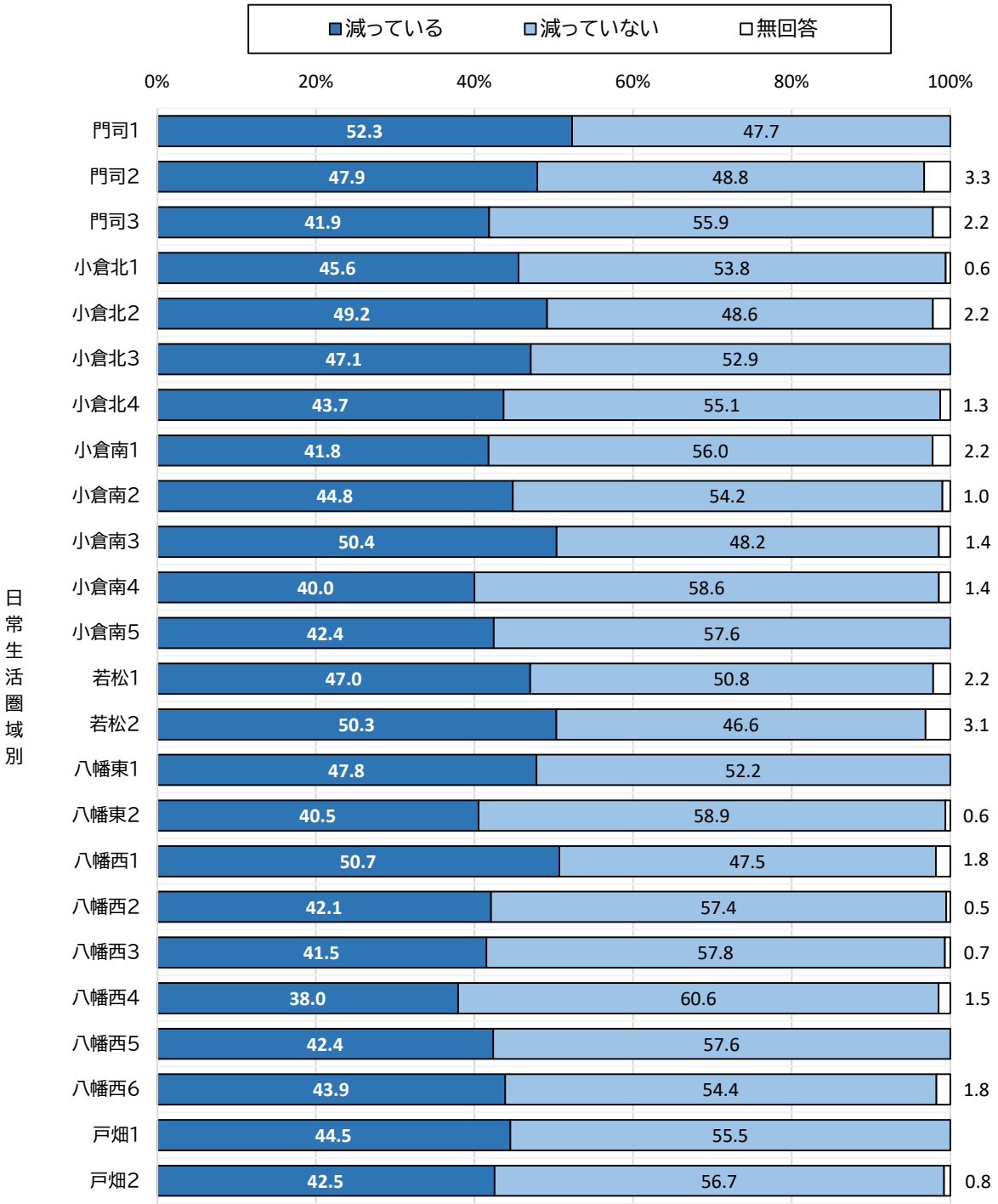


図 3-4-②　外出回数の減少　【日常生活圏域別】



2．食べることについて

（1）低栄養の傾向

「低栄養が疑われる高齢者」の割合は、

- ■ 全体では、10.1%となっている。
- ■ 一般・要支援別にみると、一般高齢者が 8.9%、要支援高齢者が 11.5%で、要支援高齢者が 2.6 ポイント高くなっている。
- ■ 性別にみると、男性が 7.6%、女性が 11.7%で、女性が 4.1 ポイント高くなっている。
- ■ 年齢別にみると、年齢層ごとに大きな差はみられない。
  - ・85 歳以上が 12.5%で、最も高くなっている。
  - ・前期高齢者が 8.7%、後期高齢者が 11.2%となっている。

※「低栄養が疑われる高齢者」の判定は、
国の手引きに基づき、表 3-5 に示す設問に基づき実施した。

図 3-5-①　低栄養の傾向　【全域】

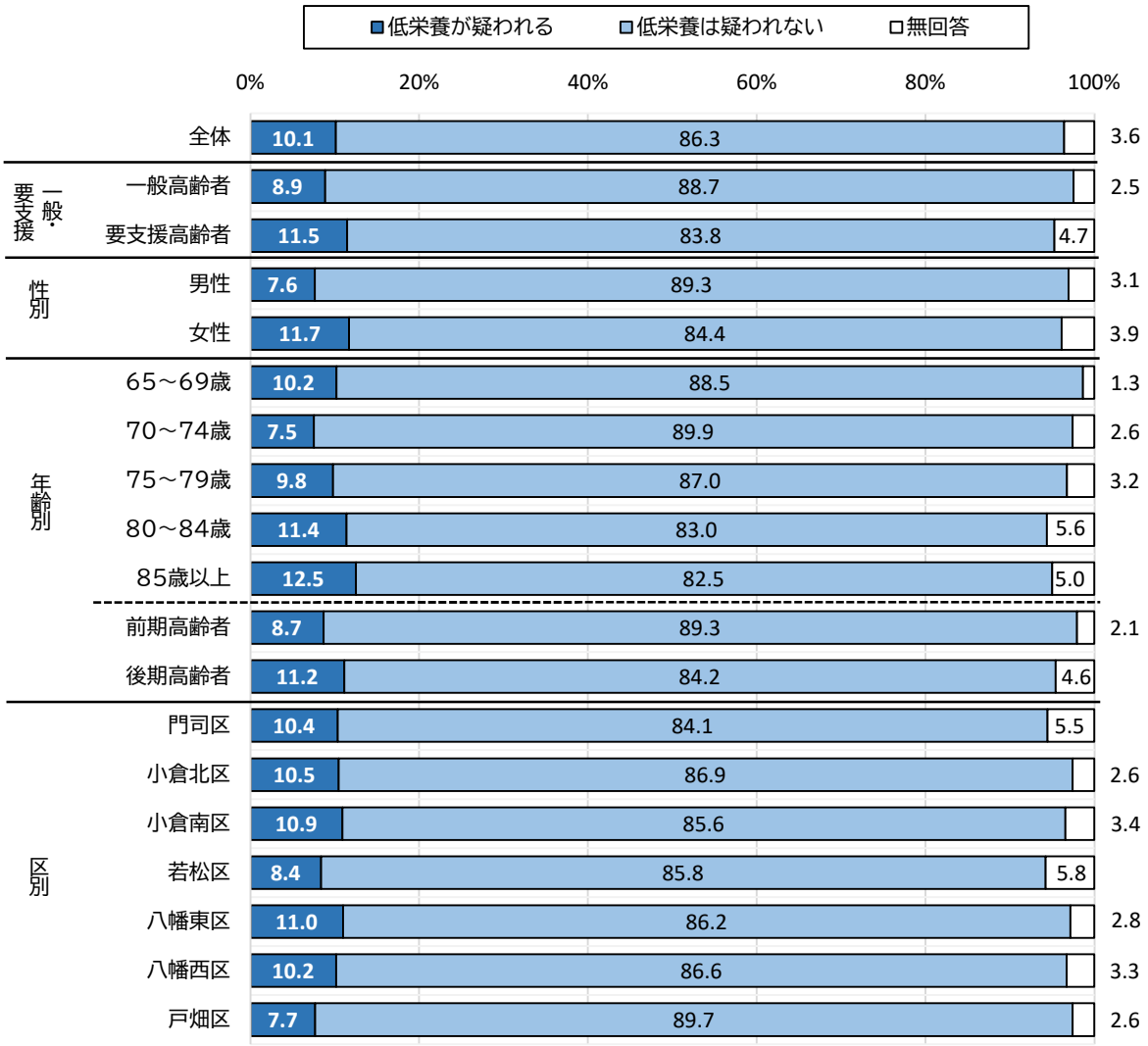


図 3-5-②　低栄養の傾向　【日常生活圏域別】

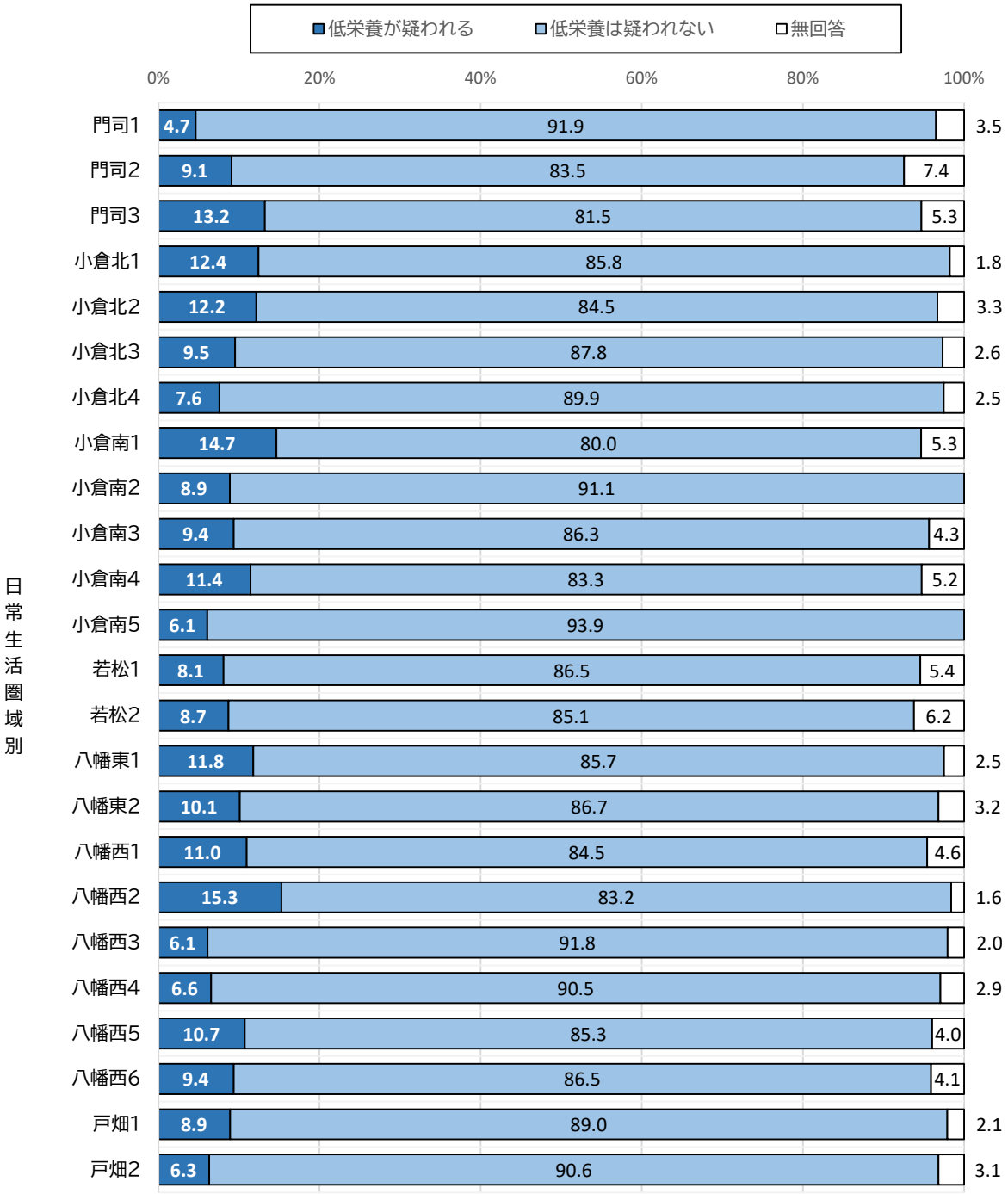


表3-5判定に用いた設問と判定基準（低栄養の傾向）

設問		判定基準
問3-Q1	身長・体重 （計算式）BMI＝体重[kg]÷（身長[m]×身長[m]）	BMI≦18.5が 低栄養が疑われる高齢者

（2）咀嚼（そしゃく）機能

「咀嚼機能の低下が疑われる高齢者」の割合は、

- ■ 全体では、44.1%となっている。
- ■ 一般・要支援別にみると、一般高齢者が 35.7%、要支援高齢者が 53.0%で、要支援高齢者が 17.3 ポイント高くなっている。
- ■ 性別にみると、男性が 41.5%、女性が 45.8%で、女性が 4.3 ポイント高くなっている。
- ■ 年齢別にみると、年齢層が上がるにつれて割合が高まる傾向にある。
  - ・85 歳以上が 56.0%で、最も高くなっている。
  - ・前期高齢者が 35.5%、後期高齢者が 50.1%となっている。

※「咀嚼機能の低下が疑われる高齢者」の判定は、国の手引きに基づき、表 3-6 に示す設問に基づき実施した。

図 3-6-①　咀嚼機能　【全域】

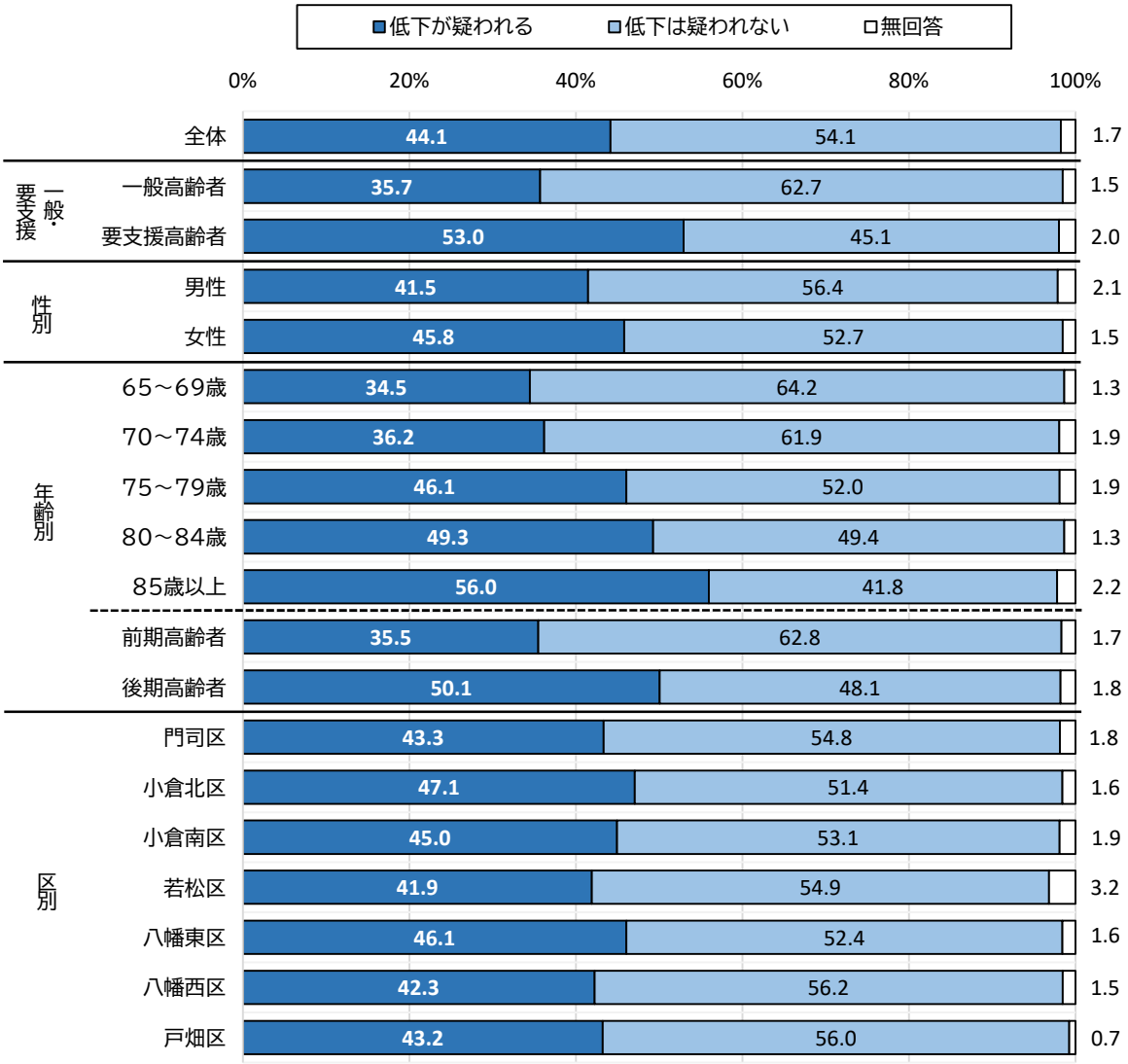


図 3-6-②　咀嚼機能　【日常生活圏域別】

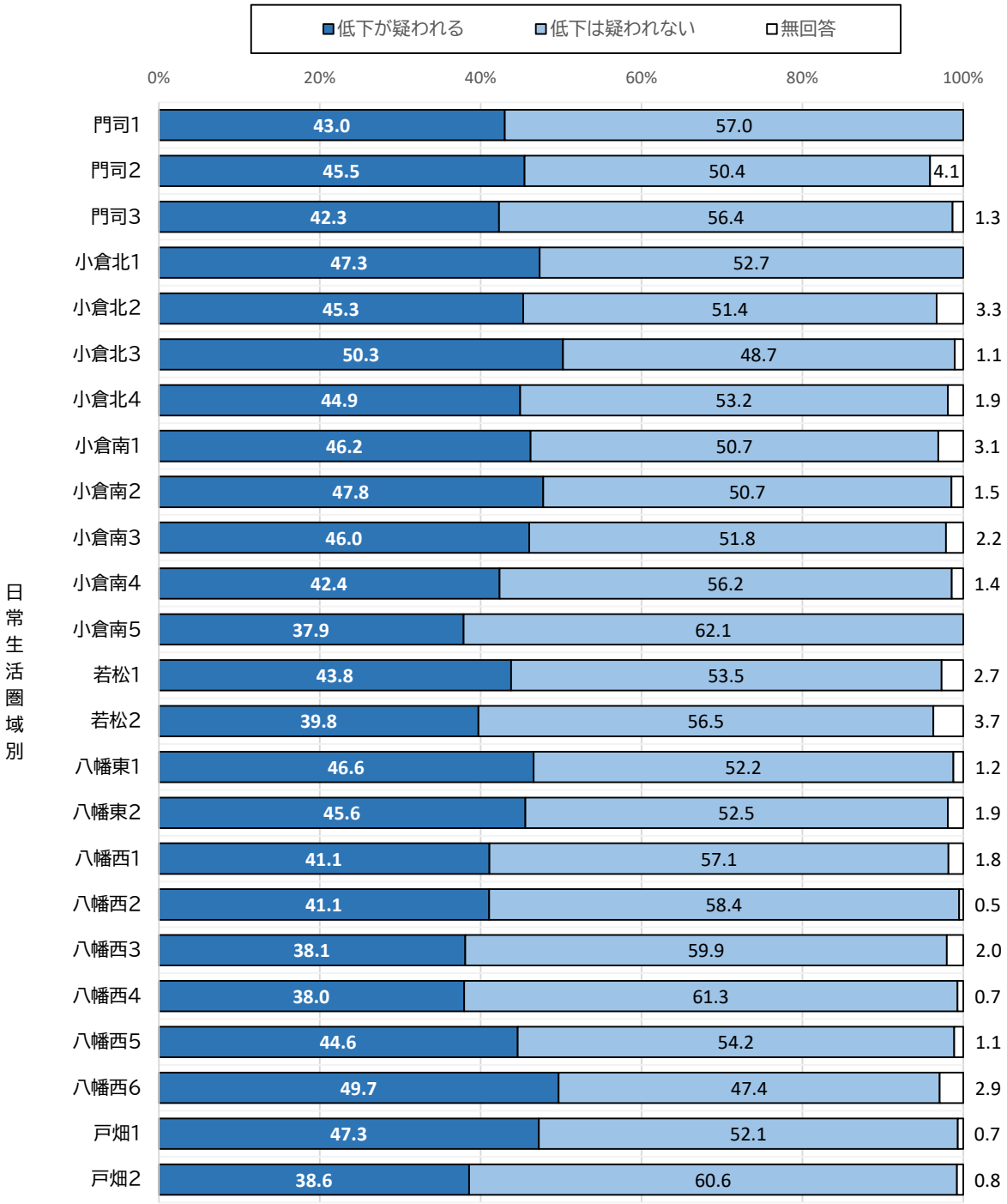


表3-6判定に用いた設問と判定基準（咀嚼機能）

設問		対象選択肢	判定基準
問3-Q2	半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか	・はい	対象選択肢が回答された場合が、咀嚼機能の低下が疑われる高齢者

（3）義歯の有無と歯数

問3-Q3　　歯の数と入れ歯の利用状況を教えてください。

自分の歯の数と入れ歯の利用状況を尋ねたところ、

■ 全体では、「自分の歯は 19 本以下、かつ入れ歯を利用」の割合が 43.3%で最も高く、
「自分の歯は 20 本以上、入れ歯の利用なし」27.6%、
「自分の歯は 20 本以上、かつ入れ歯を利用」14.7%、
「自分の歯は 19 本以下、入れ歯の利用なし」10.8%の順となっている。

■ 一般・要支援別にみると、「自分の歯は 19 本以下、かつ入れ歯を利用」が、
ともに最も高く、一般高齢者が 38.9%、要支援高齢者が 47.9%となっている。

■ 性別にみると、大きな差はみられない。

■ 年齢別にみると、年齢層が上がるにつれて、
「自分の歯は 19 本以下、かつ入れ歯を利用」の割合が高まる傾向にある。

図 3-7-①　歯の数と入れ歯の利用状況　【全域】

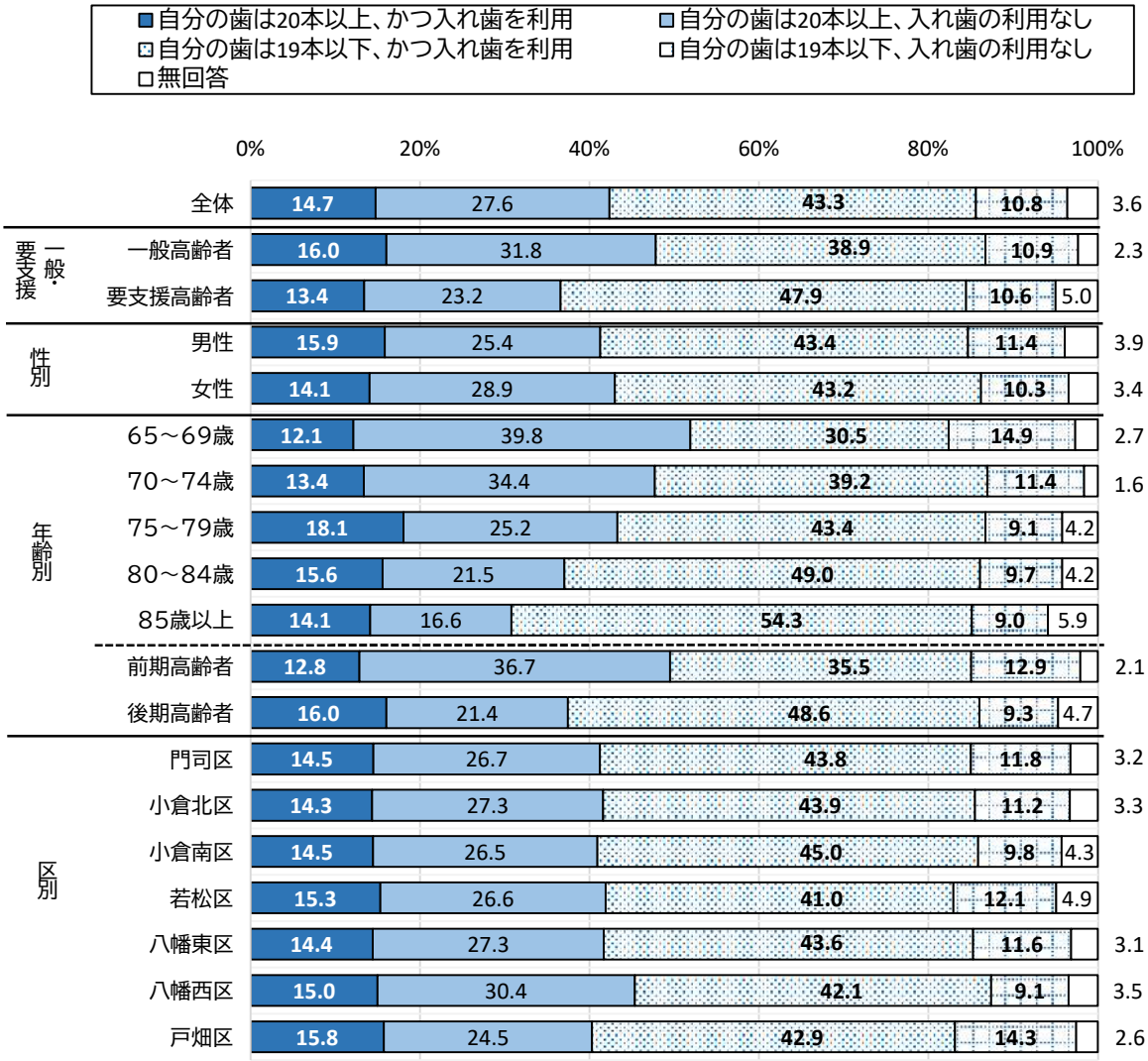
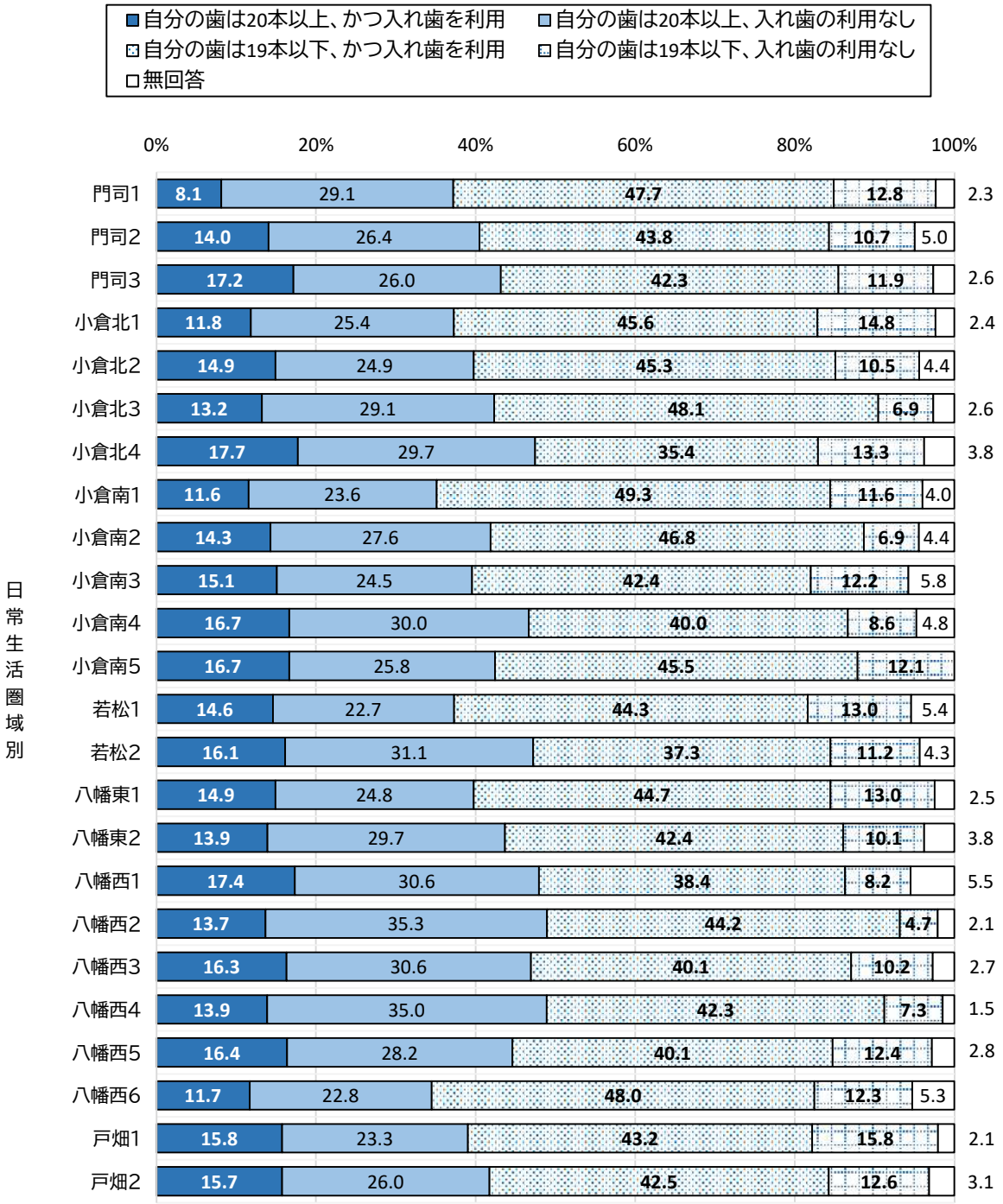


図 3-7-②　歯の数と入れ歯の利用状況　【日常生活圏域別】



（4）孤食の状況

問3-Q4　　どなたかと食事をともにする機会はありますか。

「誰かと食事をともにする機会がある」と回答した割合は、

- ■ 全体では、85.2%となっている。
- ■ 一般・要支援別にみると、一般高齢者が 89.1%、要支援高齢者が 81.1%で、一般高齢者が 8.0 ポイント高くなっている。
- ■ 性別にみると、男性が 82.7%、女性が 86.8%で、大きな差はみられない。
- ■ 年齢別にみると、年齢層が上がるにつれて割合が低下する傾向にある。
  - ・65～69 歳が 88.5%で、最も高くなっている。
  - ・前期高齢者が 87.2%、後期高齢者が 83.9%となっている。

図 3-8-①　食事をともにする機会　【全域】

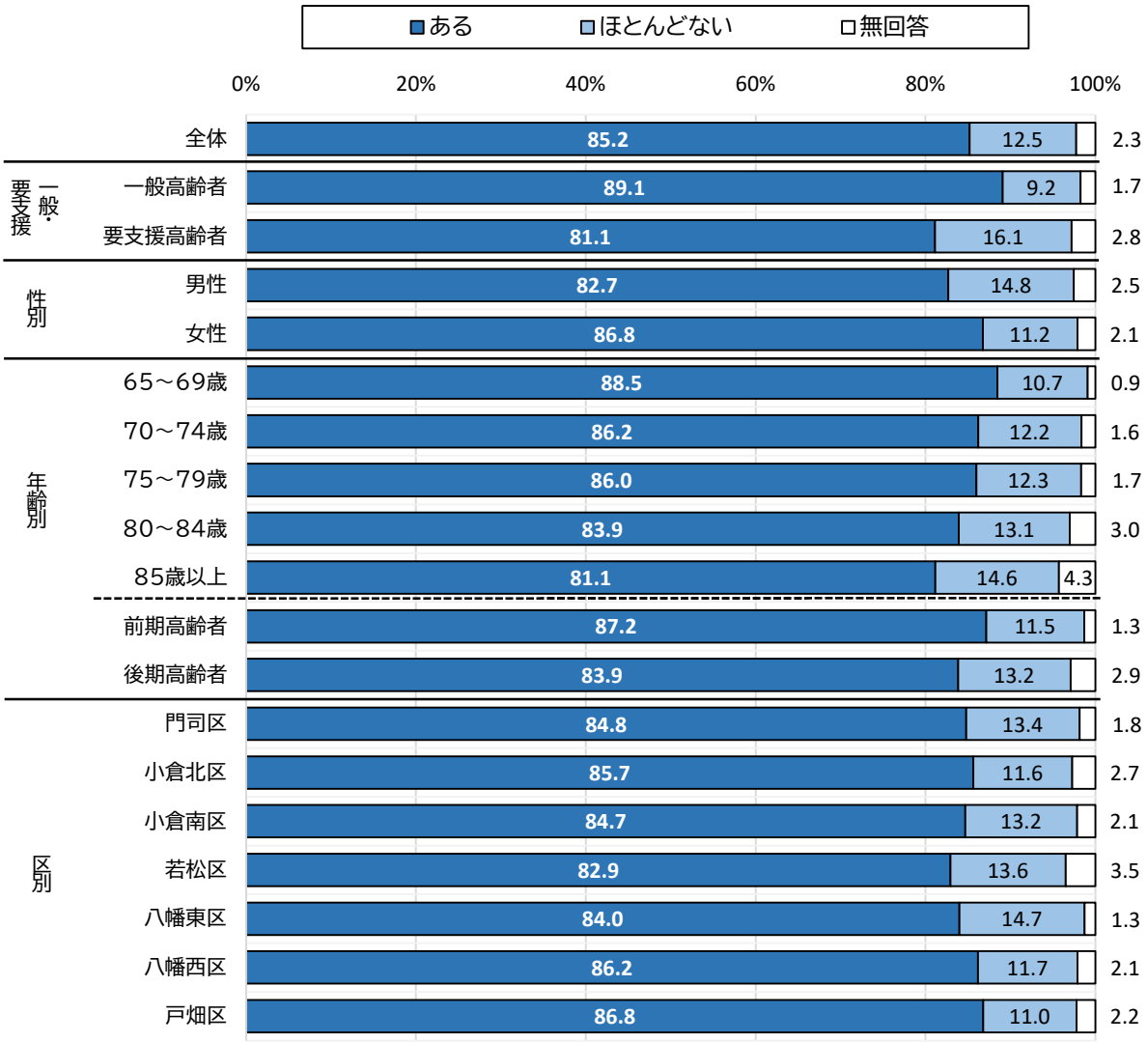
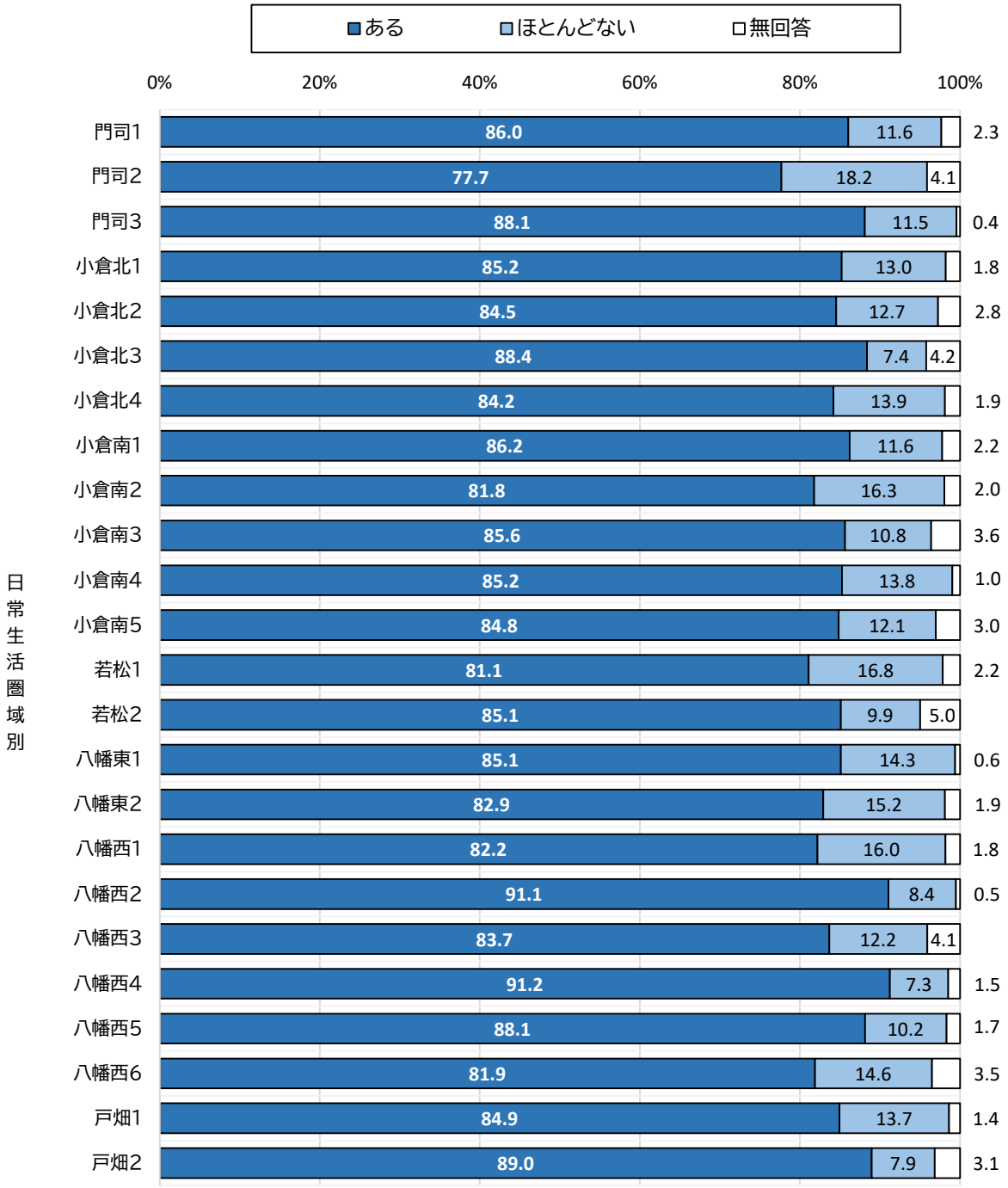


図 3-8-②　食事をともにする機会　【日常生活圏域別】



3．毎日の生活について

（1）認知機能

「認知機能の低下がみられる高齢者」の割合は、

- ■ 全体では、47.2%となっている。
- ■ 一般・要支援別にみると、一般高齢者が 40.2%、要支援高齢者が 54.6%で、要支援高齢者が 14.4 ポイント高くなっている。
- ■ 性別にみると、男性が 45.7%、女性が 48.2%で、女性が 2.5 ポイント高くなっている。
- ■ 年齢別にみると、年齢層が上がるにつれて割合が高まる傾向にある。
  - ・85 歳以上が 56.4%で、最も高くなっている。
  - ・前期高齢者が 37.9%、後期高齢者が 53.6%となっている。

※「認知機能の低下がみられる高齢者」の判定は、
国の手引きに基づき、表 3-9 に示す設問に基づき実施した。

図 3-9-①　認知機能　【全域】

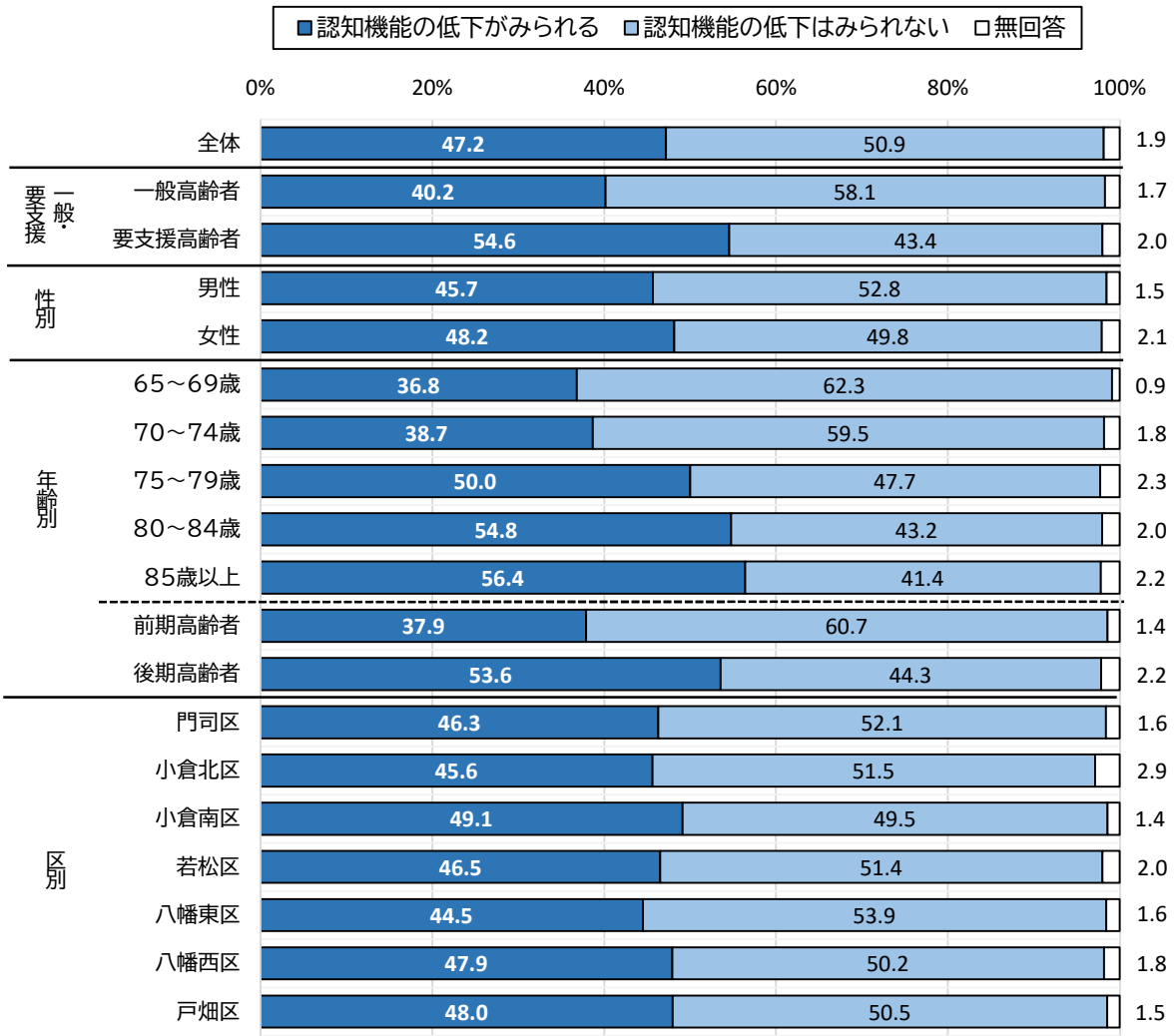


図 3-9-②　認知機能　【日常生活圏域別】

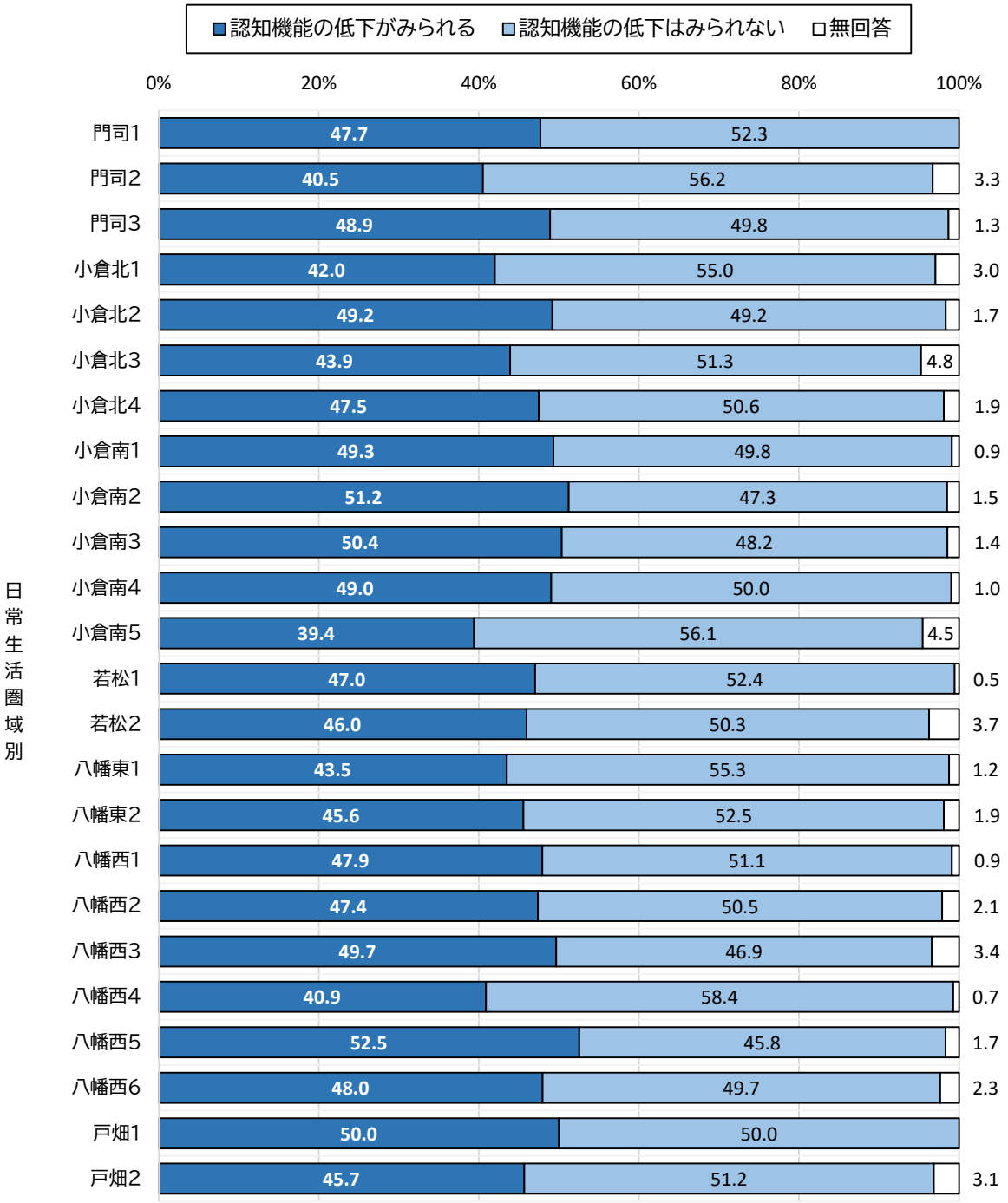


表3-9判定に用いた設問と判定基準（認知機能）

設問		対象選択肢	判定基準
問4-Q1	物忘れが多いと感じますか	・はい	対象選択肢が回答された場合が、認知機能の低下がみられる高齢者

（2）手段的日常生活動作（ＩＡＤＬ）

「ＩＡＤＬが低下している高齢者」（判定基準 4 点以下）の割合は、

- ■ 全体では、29.8%となっている。
- ■ 一般・要支援別にみると、一般高齢者が 15.1%、要支援高齢者が 45.0%で、要支援高齢者が 29.9 ポイント高くなっている。
- ■ 性別にみると、男性が 34.2%、女性が 27.0%で、男性が 7.2 ポイント高くなっている。
- ■ 年齢別にみると、年齢層が上がるにつれて割合が高まる傾向にある。
  - ・85 歳以上が 53.9%で、最も高くなっている。
  - ・前期高齢者が 17.3%、後期高齢者が 38.3%となっている。

※活動的な日常生活を送るための動作（バスに乗って買い物に行く、食事の支度をする、電話をかけるなど）の能力を指す「手段的日常生活動作（ＩＡＤＬ）」の判定は、表 3-10 に示す設問に基づき実施した。

図 3-10-①　手段的日常生活動作（ＩＡＤＬ）【全域】

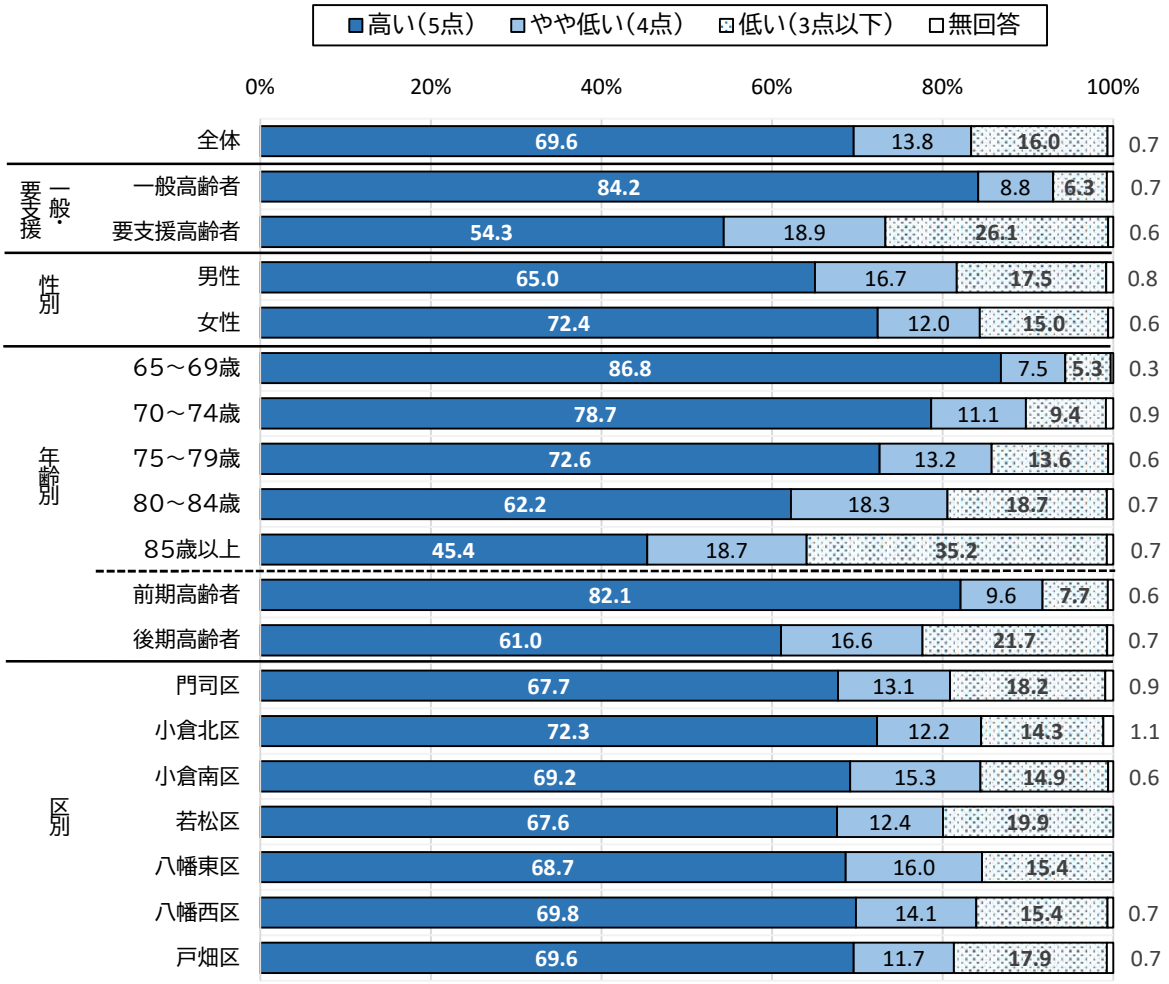


図3-10-②　手段的日常生活動作（ＩＡＤＬ）【日常生活圏域別】

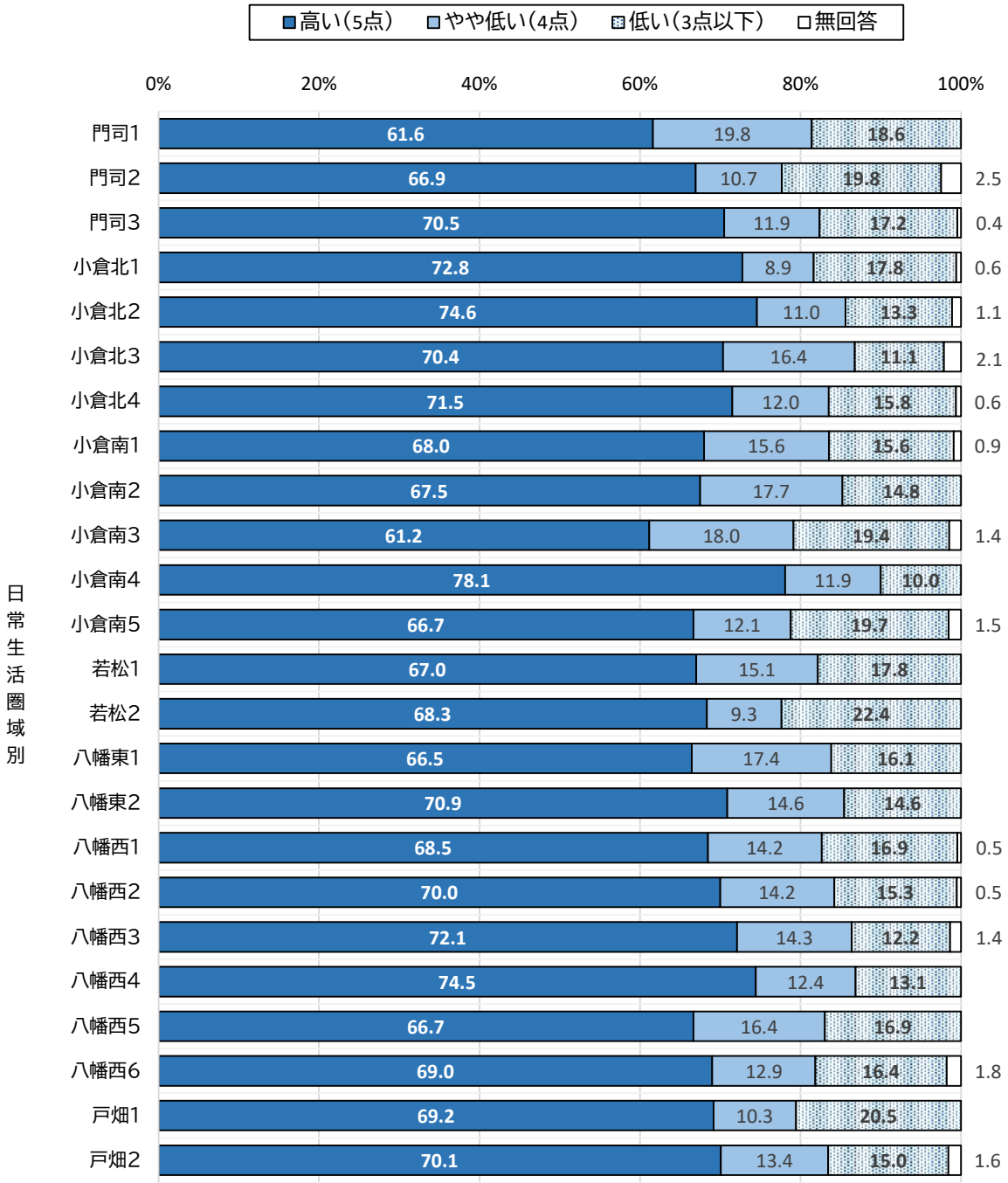


表3-10判定に用いた設問と判定基準（IADL）

設問		対象選択肢	判定基準
問4-Q2	バスや電車を使って1人で外出していますか（自家用車でも可）	・できるし、している ・できるけどしていない　（1点）	・「高い」5点 ・「やや低い」4点 ・「低い」3点以下
問4-Q3	自分で食品・日用品の買物をしていますか	・できるし、している ・できるけどしていない　（1点）	
問4-Q4	自分で食事の用意をしていますか	・できるし、している ・できるけどしていない　（1点）	
問4-Q5	自分で請求書の支払いをしていますか	・できるし、している ・できるけどしていない　（1点）	
問4-Q6	自分で預貯金の出し入れをしていますか	・できるし、している ・できるけどしていない　（1点）	

4．地域での活動について

（1）社会参加活動（① ボランティアグループ）

問5-Q1-① ボランティアのグループに参加していますか。

「ボランティアのグループに参加している」と回答した割合は、

- ■ 全体では、9.9%となっている。
- ■ 一般・要支援別にみると、一般高齢者が 12.2%、要支援高齢者が 7.5%で、一般高齢者が 4.7 ポイント高くなっている。
- ■ 性別にみると、男性が 10.6%、女性が 9.4%で、男性が 1.2 ポイント高くなっている。
- ■ 年齢別にみると、75～79 歳までは大きな差はみられないが、80～84 歳から割合が低下する傾向にある。
  - ・75～79 歳が 12.2%で、最も高くなっている。
  - ・前期高齢者が 11.4%、後期高齢者が 8.9%となっている。

図 3-11-① ボランティアのグループへの参加【全域】

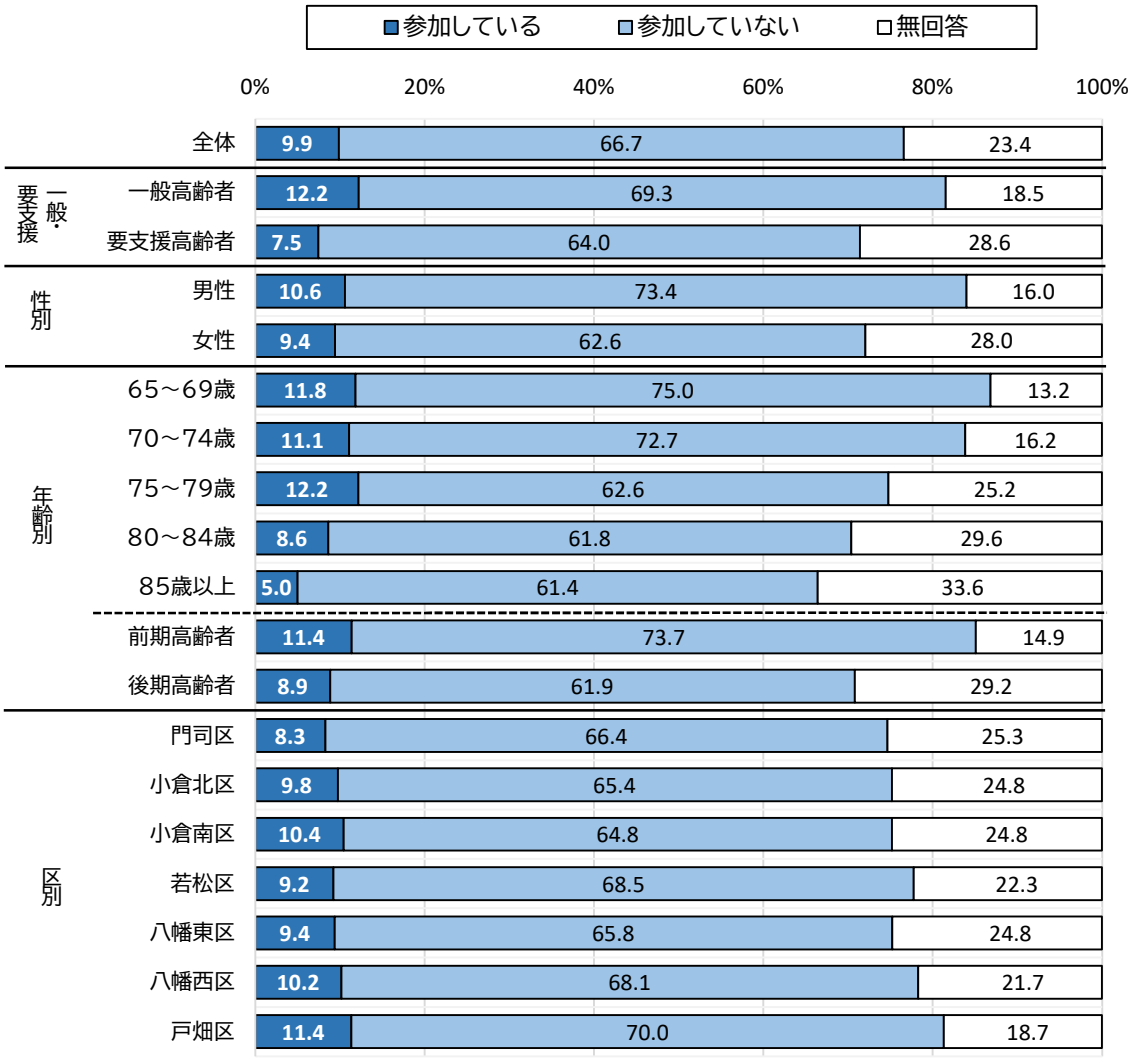
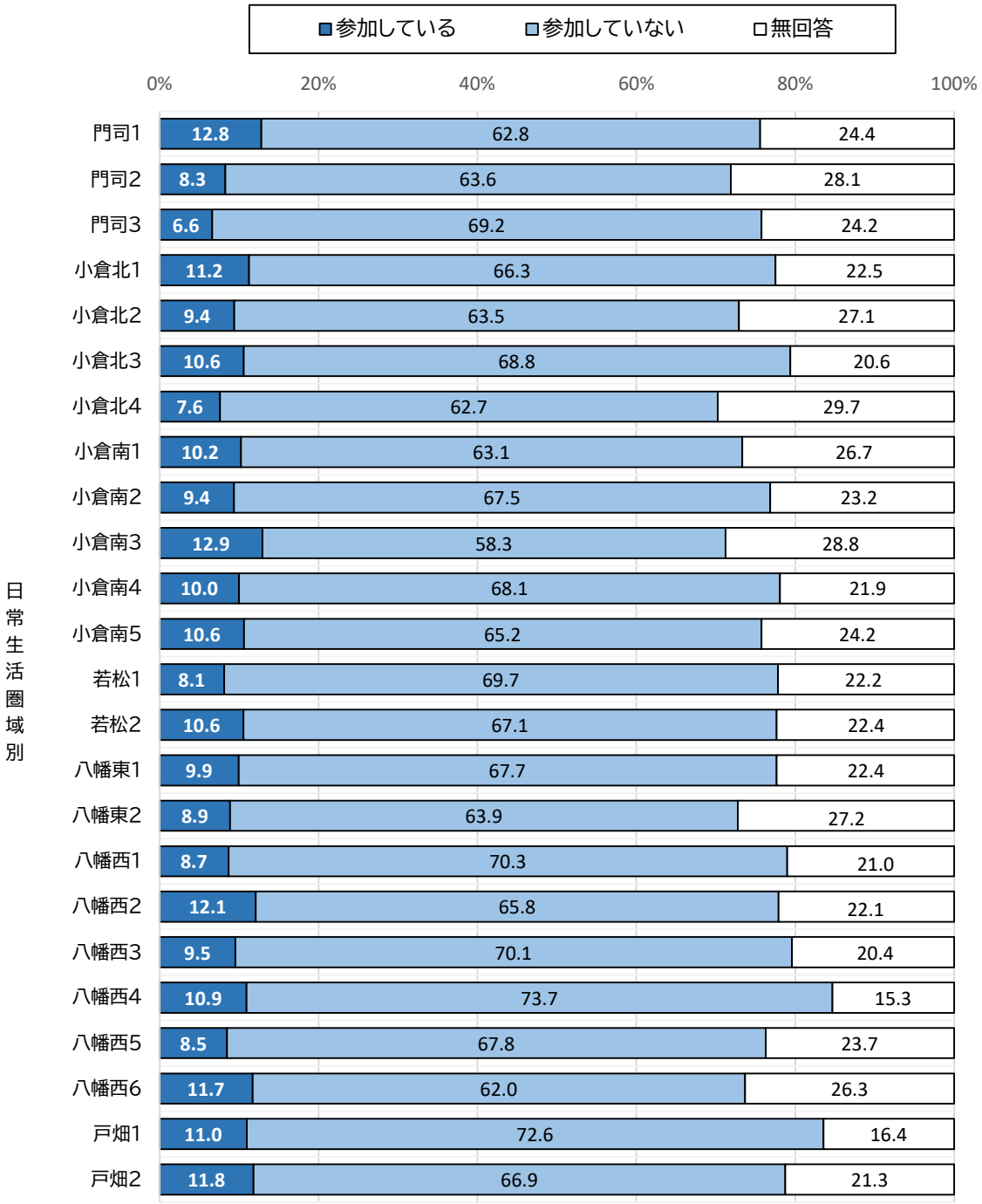


図 3-11-②　ボランティアのグループへの参加【日常生活圏域別】



（2）社会参加活動（② スポーツ関係のグループやクラブ）

問5-Q1-②	スポーツ関係のグループやクラブに参加していますか。

「スポーツ関係のグループやクラブに参加している」と回答した割合は、

- ■ 全体では、16.6%となっている。
- ■ 一般・要支援別にみると、一般高齢者が 21.8%、要支援高齢者が 11.1%で、一般高齢者が 10.7 ポイント高くなっている。
- ■ 性別にみると、男性が 17.1%、女性が 16.3%で、大きな差はみられない。
- ■ 年齢別にみると、75～79 歳までは大きな差はみられないが、80～84 歳から割合が低下する傾向にある。
  - ・65～69 歳が 20.9%で、最も高くなっている。
  - ・前期高齢者が 19.3%、後期高齢者が 14.8%となっている。

図 3-12-①　スポーツ関係のグループやクラブへの参加【全域】

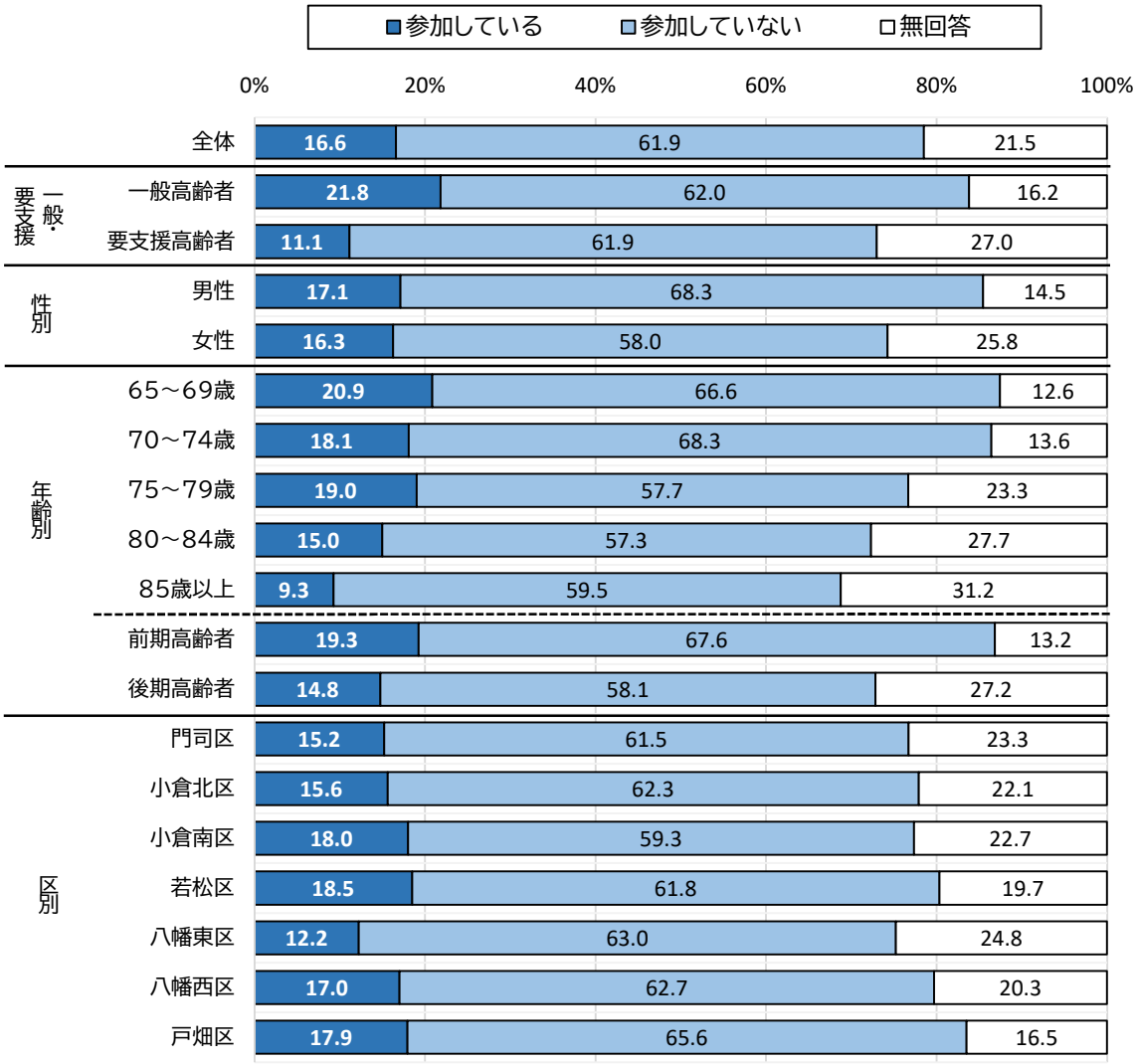
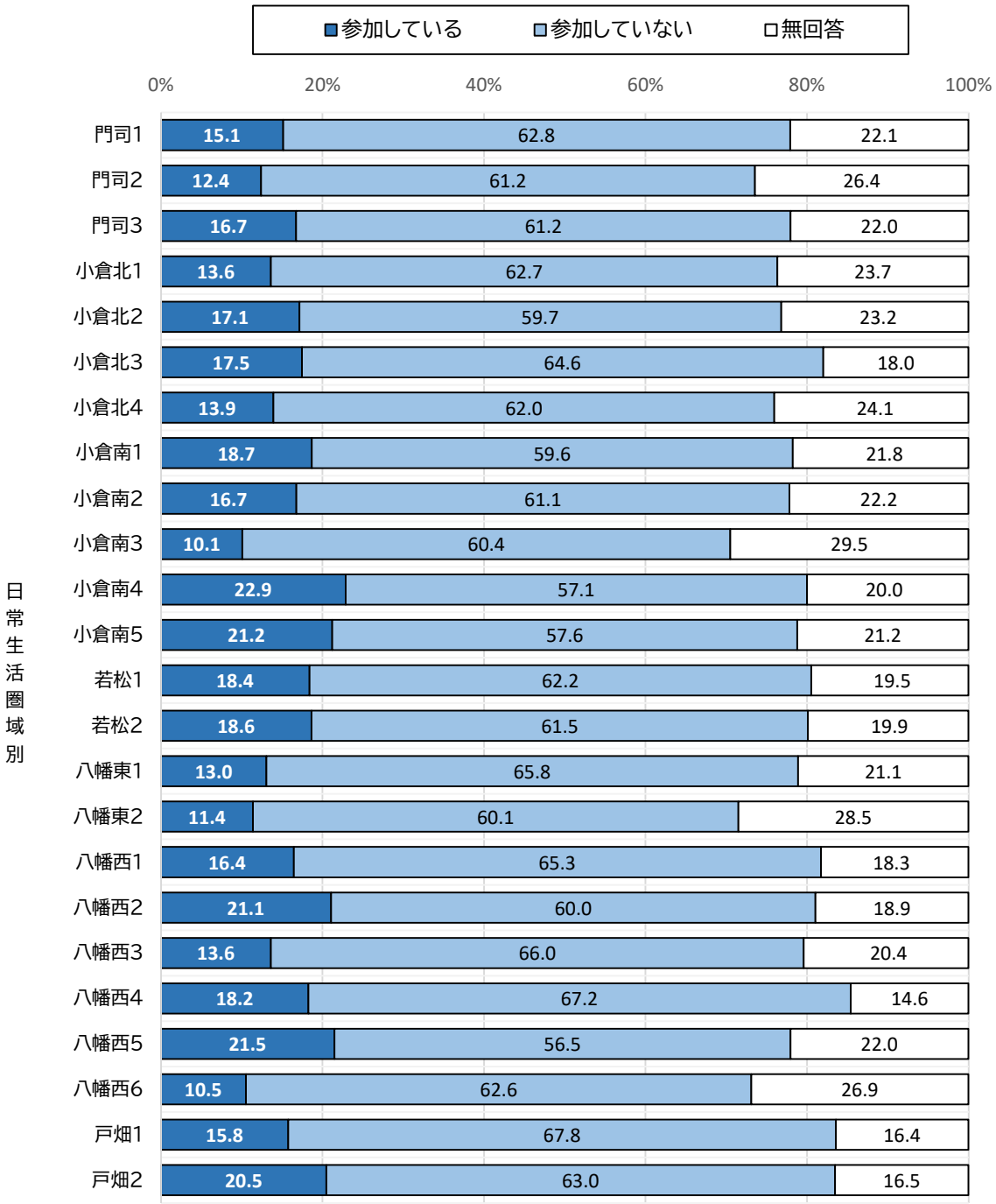


図 3-12-②　スポーツ関係のグループやクラブへの参加【日常生活圏域別】



（3）社会参加活動（③ 趣味関係のグループ）

問５-Ｑ１-③　　趣味関係のグループに参加していますか。

「趣味関係のグループに参加している」と回答した割合は、

- ■ 全体では、18.9%となっている。
- ■ 一般・高齢別にみると、一般高齢者が 23.7%、要支援高齢者が 14.0%で、一般高齢者が 9.7 ポイント高くなっている。
- ■ 性別にみると、男性が 16.8%、女性が 20.3%で、女性が 3.5 ポイント高くなっている。
- ■ 年齢別にみると、75～79 歳までは大きな差はみられないが、80～84 歳から割合が低下する傾向にある。
  - ・70～74 歳が 21.3%で、最も高くなっている。
  - ・前期高齢者が 20.7%、後期高齢者が 17.8%となっている。

図 3-13-①　趣味関係のグループへの参加【全域】

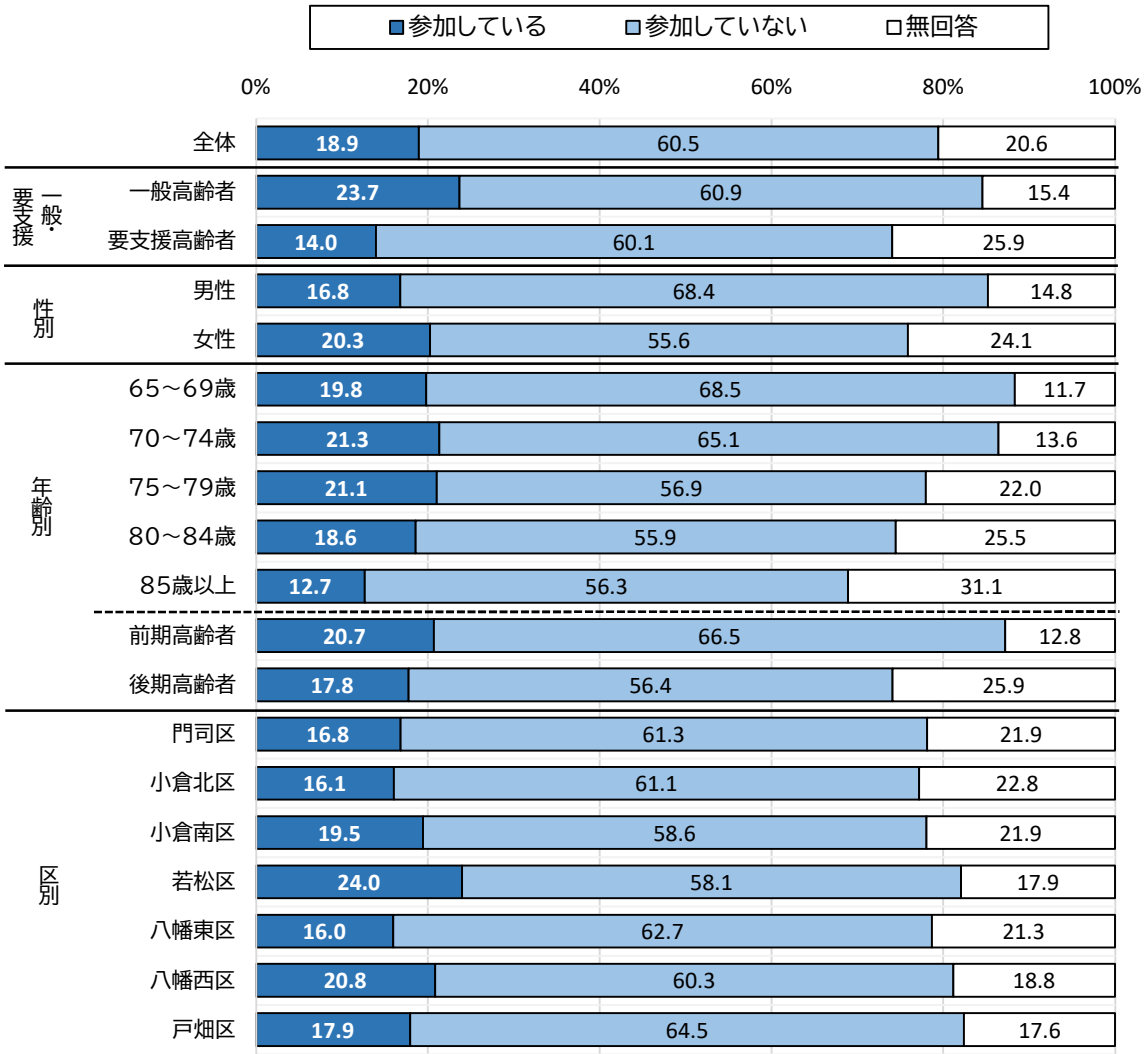
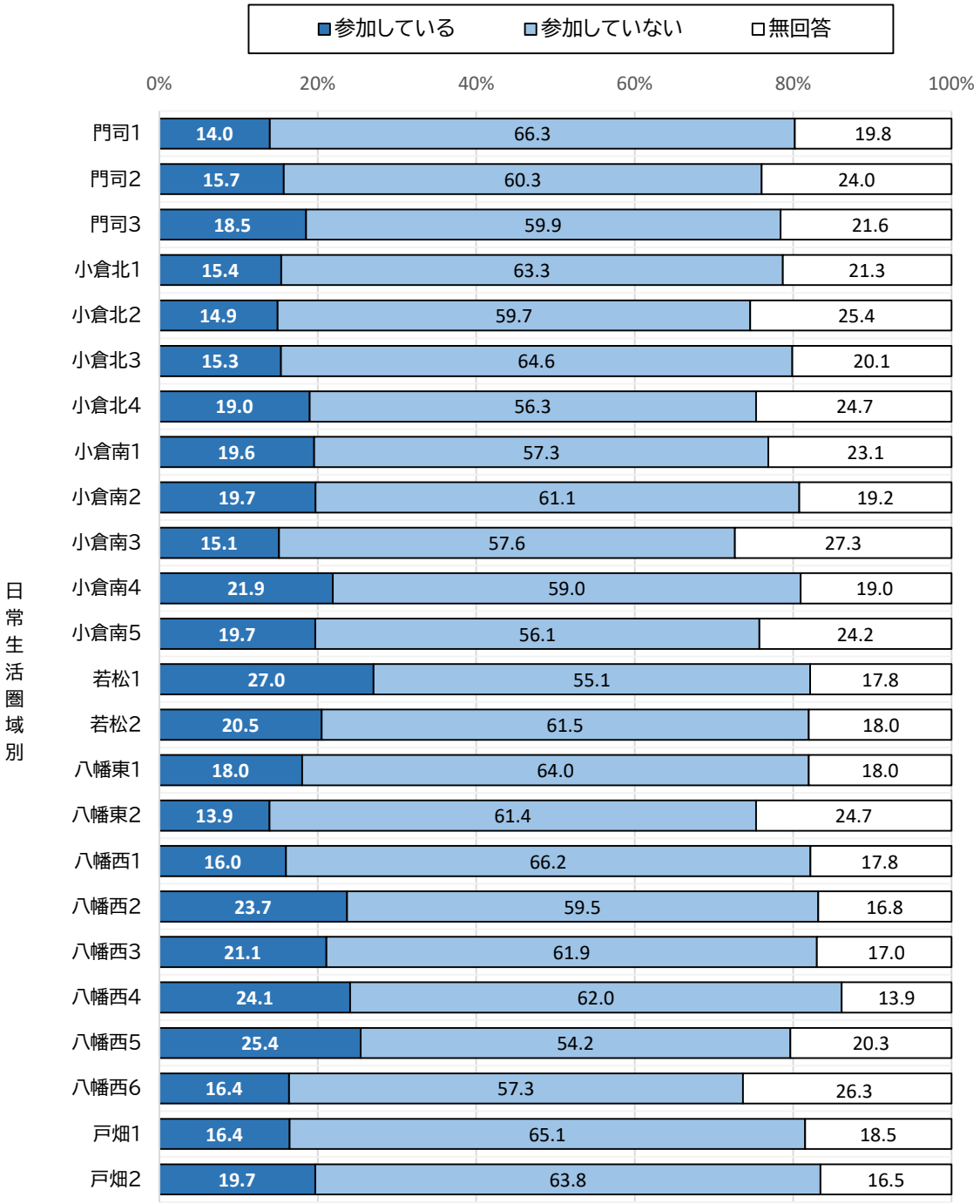


図 3-13-②　趣味関係のグループへの参加【日常生活圏域別】



（4）社会参加活動（④ 学習・教養サークル）

問5-Q1-④　　学習・教養サークルに参加していますか。

「学習・教養サークルに参加している」と回答した割合は、

- ■ 全体では、7.8%となっている。
- ■ 一般・要支援別みると、一般高齢者が 8.7%、要支援高齢者が 6.9%で、一般高齢者が 1.8 ポイント高くなっている。
- ■ 性別にみると、男性が 5.6%、女性が 9.1%で、女性が 3.5 ポイント高くなっている。
- ■ 年齢別にみると、年齢層ごとに大きな差はみられない。
  - ・75～79 歳が 10.5%で、最も高くなっている
  - ・前期高齢者が 7.6%、後期高齢者が 7.9%となっている。

図 3-14-①　学習・教養サークルへの参加【全域】

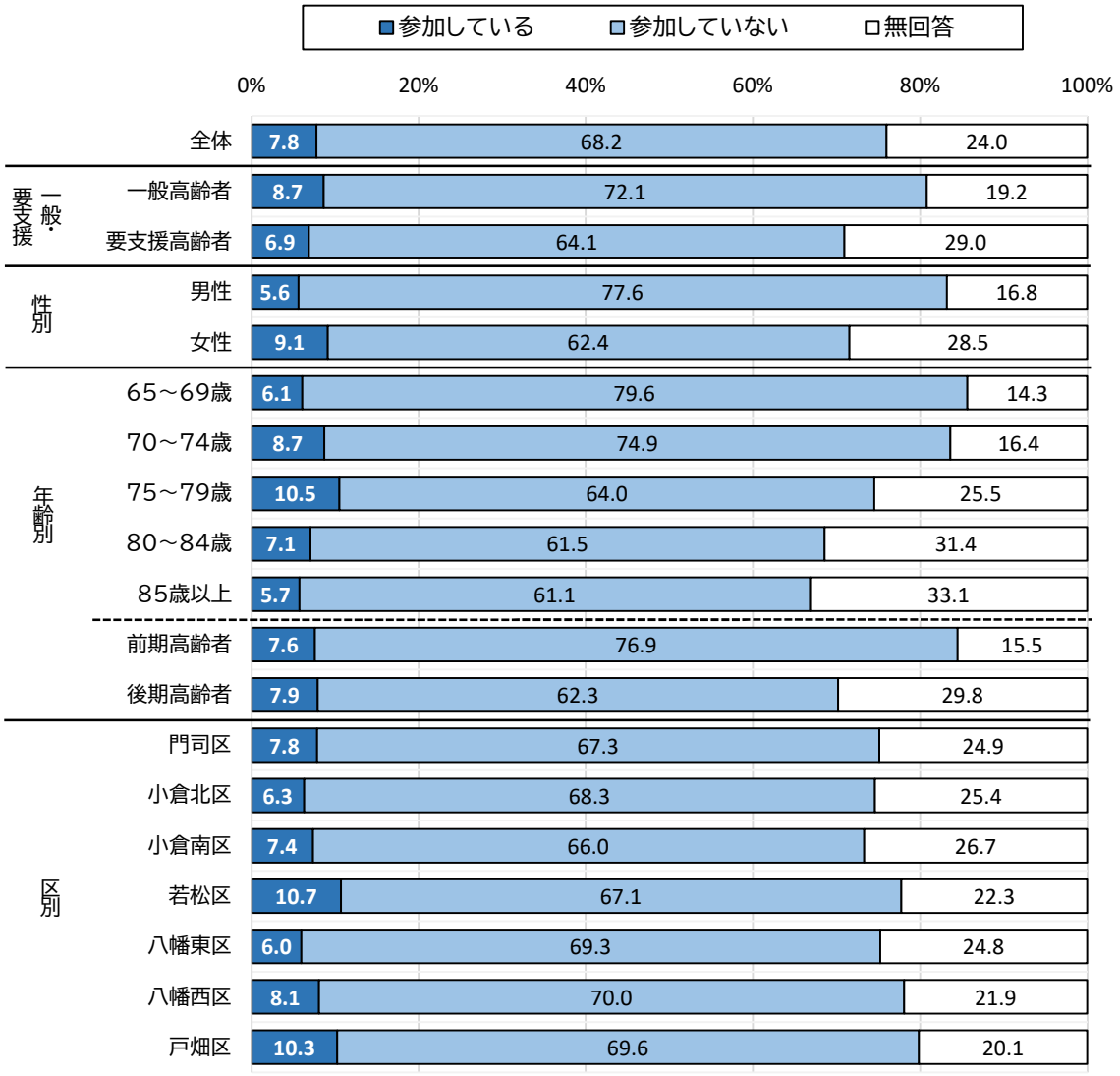
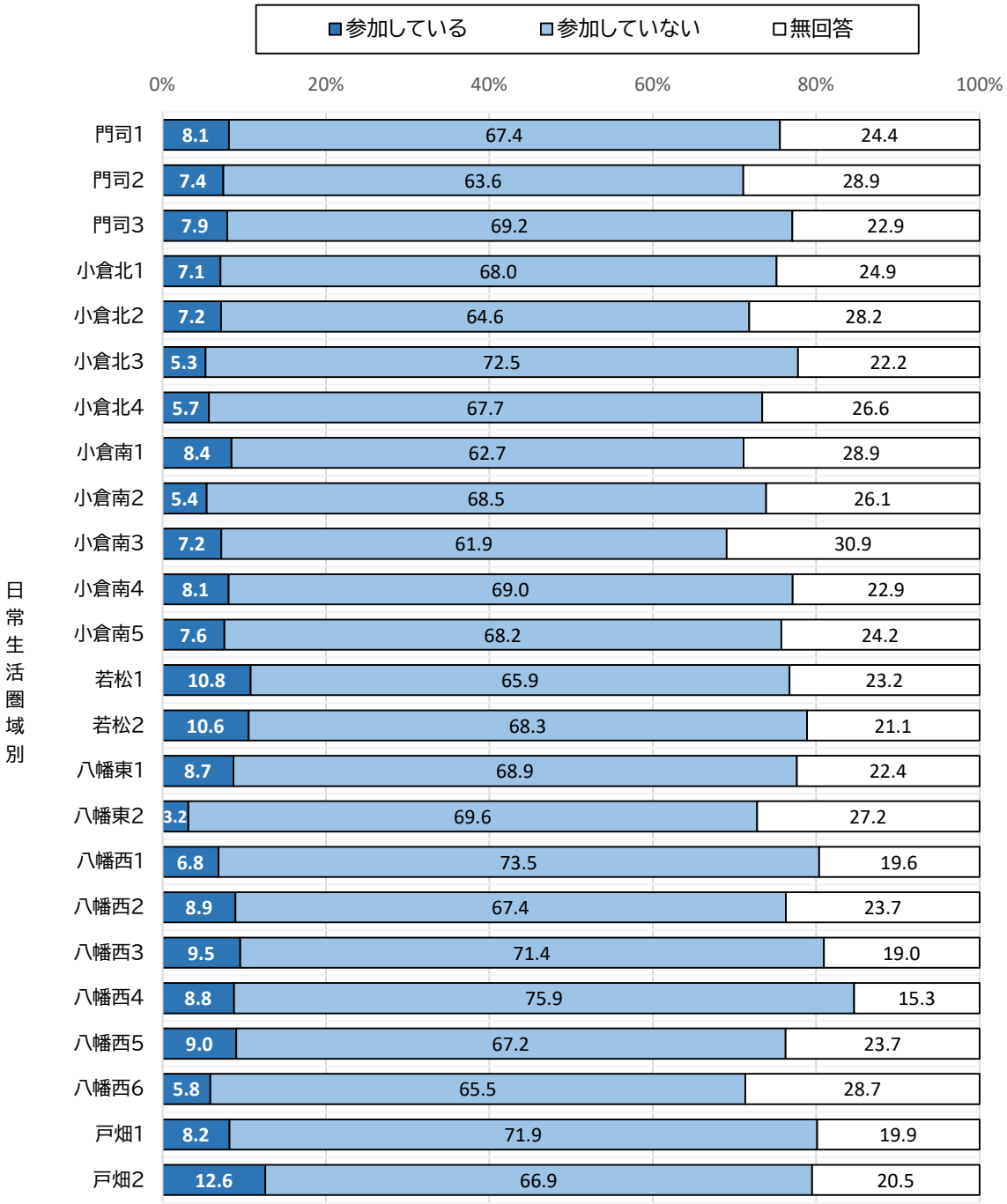


図 3-14-②　学習・教養サークルへの参加【日常生活圏域別】



（5）社会参加活動（⑤ 介護予防のための通いの場）

問5-Q1-⑤	介護予防のための通いの場（サロン、いきがい活動ステーション、ひまわり太極拳、公園で健康づくり、ふれあい昼食交流会など）に参加していますか。

「介護予防のための通いの場に参加している」と回答した割合は、

- ■ 全体では、22.9%となっている。
- ■ 一般・要支援別にみると、一般高齢者が 8.9%、要支援高齢者が 37.6%で、要支援高齢者が 28.7 ポイント高くなっている。
- ■ 性別にみると、男性が 16.7%、女性が 26.7%で、女性が 10.0 ポイント高くなっている。
- ■ 年齢別にみると、年齢層が高くなるにつれて割合が高まる傾向にある。
  - ・85 歳以上が 36.2%で、最も高くなっている。
  - ・前期高齢者が 11.2%、後期高齢者が 30.9%となっている。

図 3-15-①　介護予防のための通いの場への参加【全域】

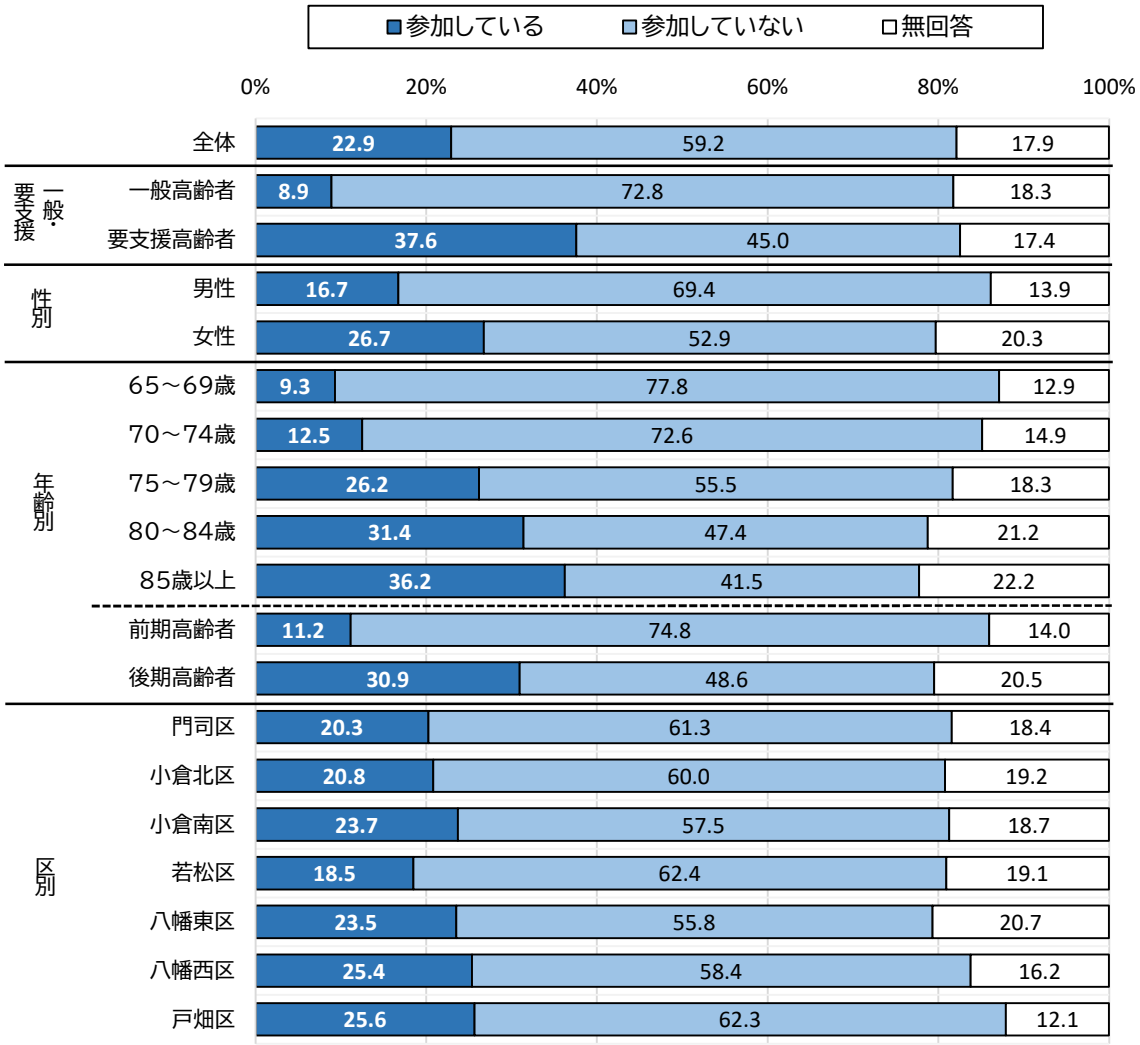
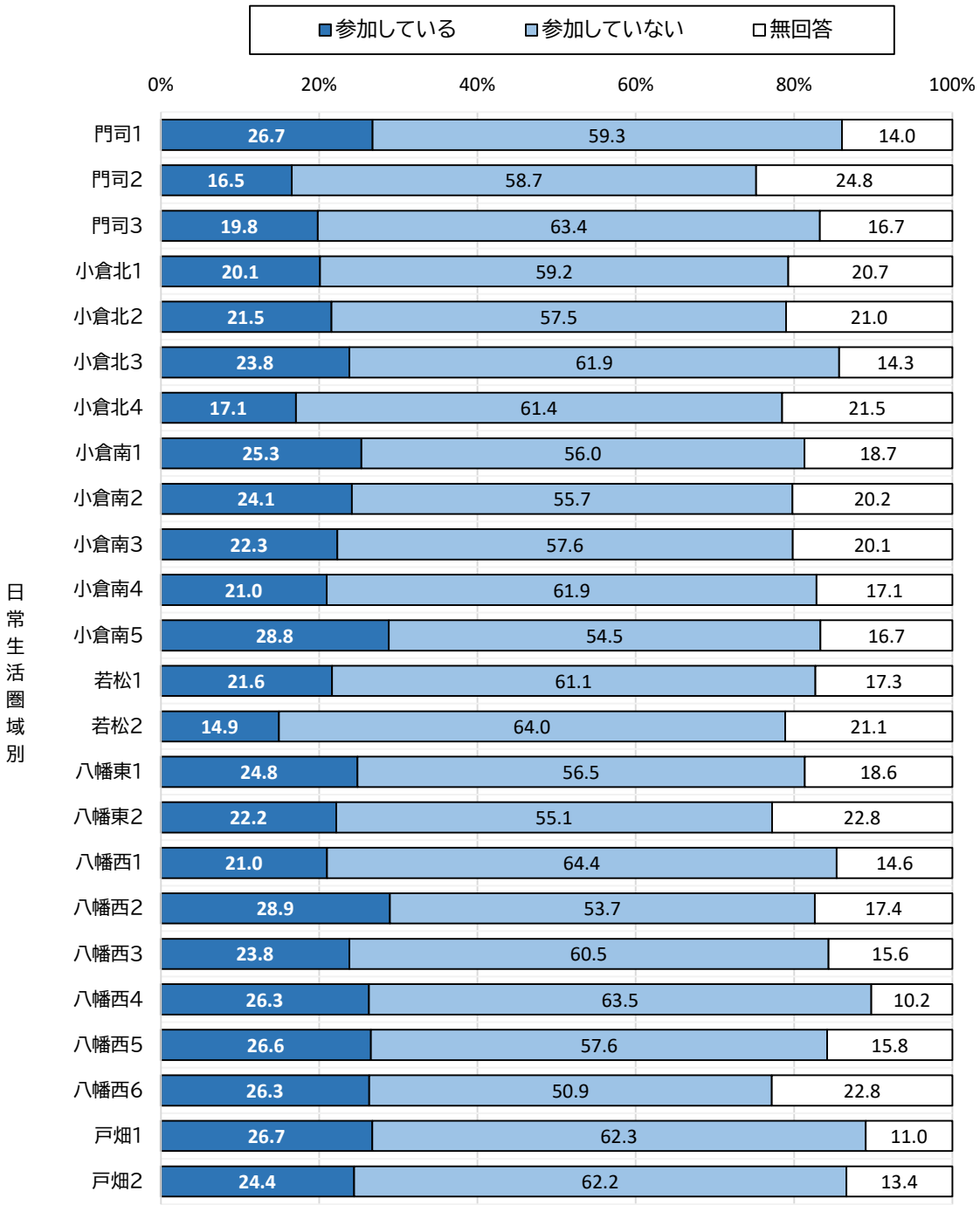


図 3-15-②　介護予防のための通いの場への参加【日常生活圏域別】



（6）社会参加活動（⑥ 老人クラブ）

問5-Q1-⑥　　老人クラブに参加していますか。

「老人クラブに参加している」と回答した割合は、

- ■ 全体では、7.4%となっている。
- ■ 一般・要支援別にみると、一般高齢者が7.1%、要支援高齢者が7.8%で、要支援高齢者が0.7ポイント高くなっている。
- ■ 性別にみると、男性が7.6%、女性が7.3%で、大きな差はみられない。
- ■ 年齢別にみると、年齢層が上がるにつれて割合が高まる傾向にあるが、85歳以上では割合が低くなっている。
  - ・80～84歳が11.2%で、最も高くなっている。
  - ・前期高齢者が4.4%、後期高齢者が9.5%となっている。

図3-16-①　老人クラブへの参加【全域】

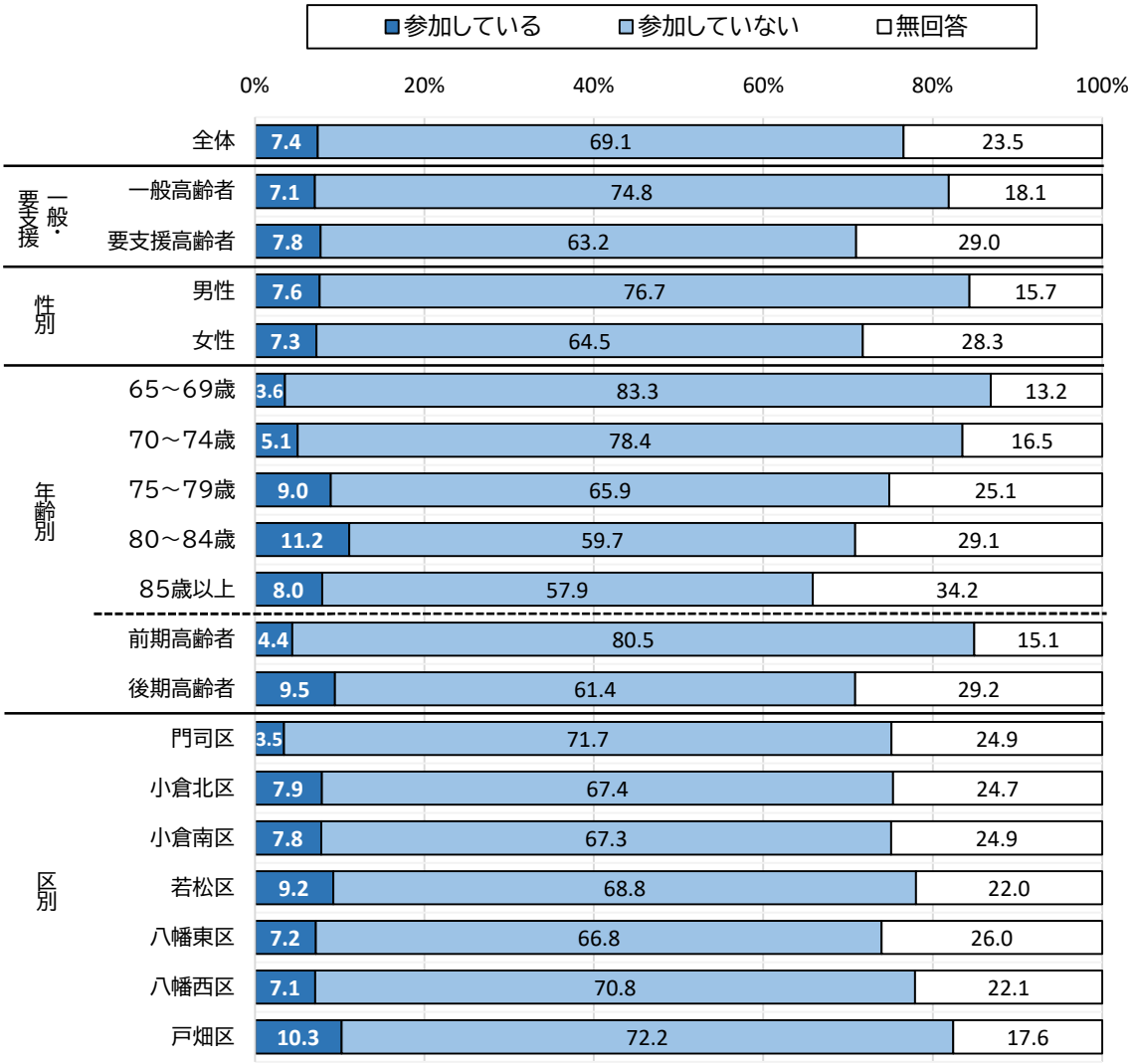
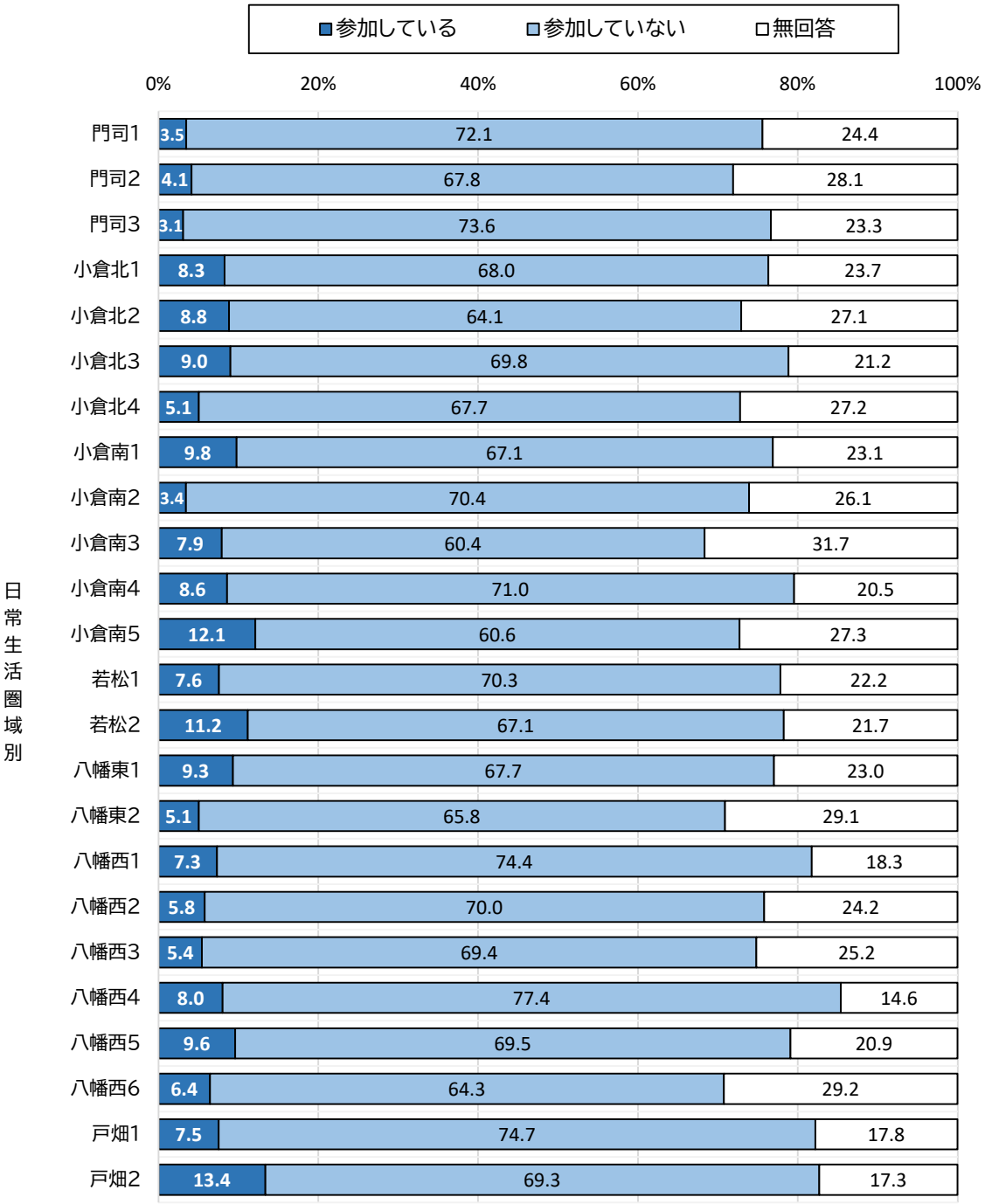


図 3-16-②　老人クラブへの参加【日常生活圏域別】



（7）社会参加活動（⑦ 町内会・自治会）

問5-Q1-⑦　　町内会・自治会に参加していますか。

「町内会・自治会に参加している」と回答した割合は、

- ■ 全体では、20.0%となっている。
- ■ 一般・要支援別にみると、一般高齢者が 25.2%、要支援高齢者が 14.6%で、一般高齢者が 10.6 ポイント高くなっている。
- ■ 性別にみると、男性が 21.5%、女性が 19.1%で、男性が 2.4 ポイント高くなっている。
- ■ 年齢別にみると、70～74 歳からは年齢層が上がるにつれて割合が低下する傾向にある。
  - ・70～74 歳が 25.4%で、最も高くなっている。
  - ・前期高齢者が 25.1%、後期高齢者が 16.6%となっている。

図 3-17-①　町内会・自治会への参加【全域】

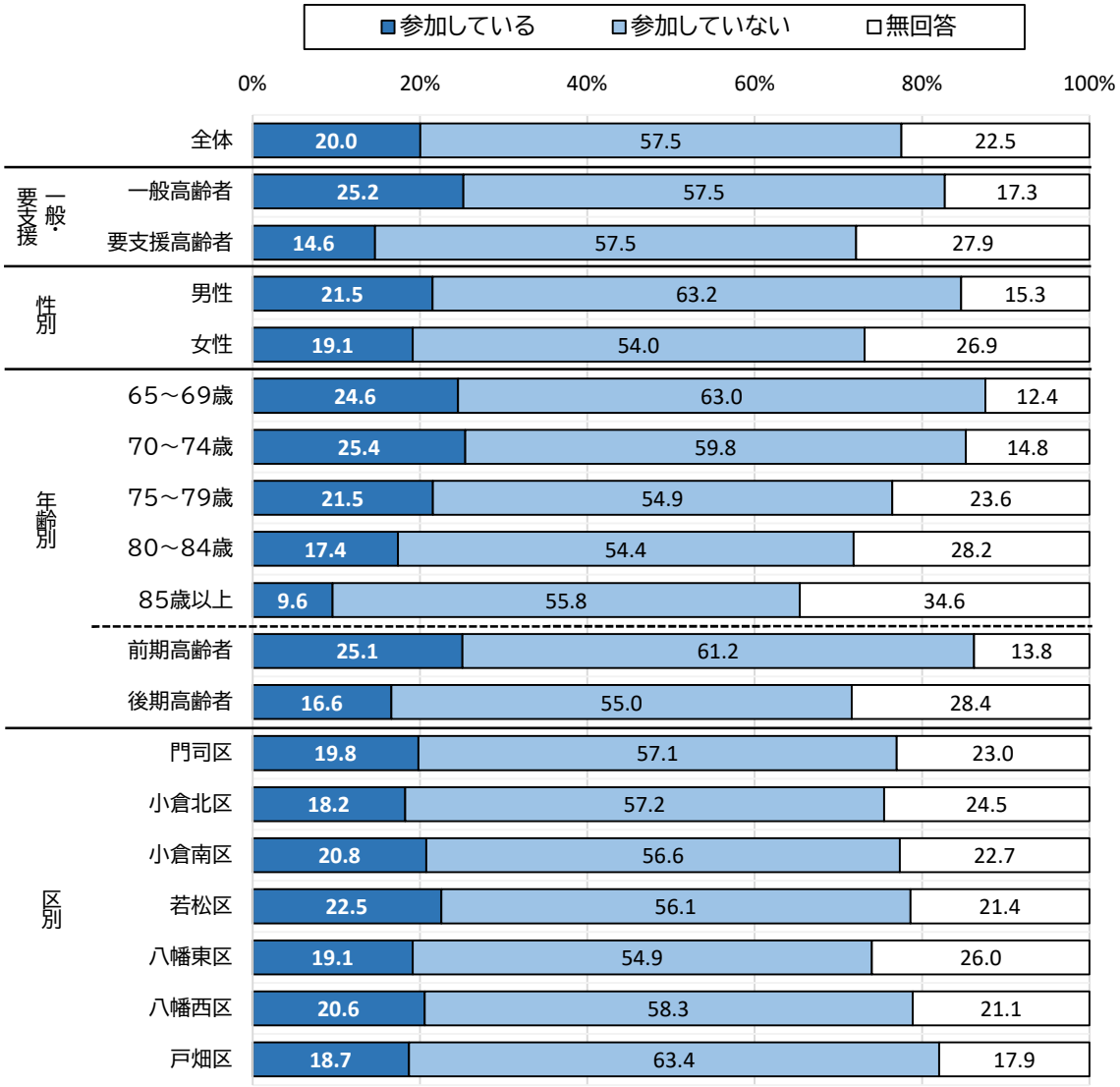
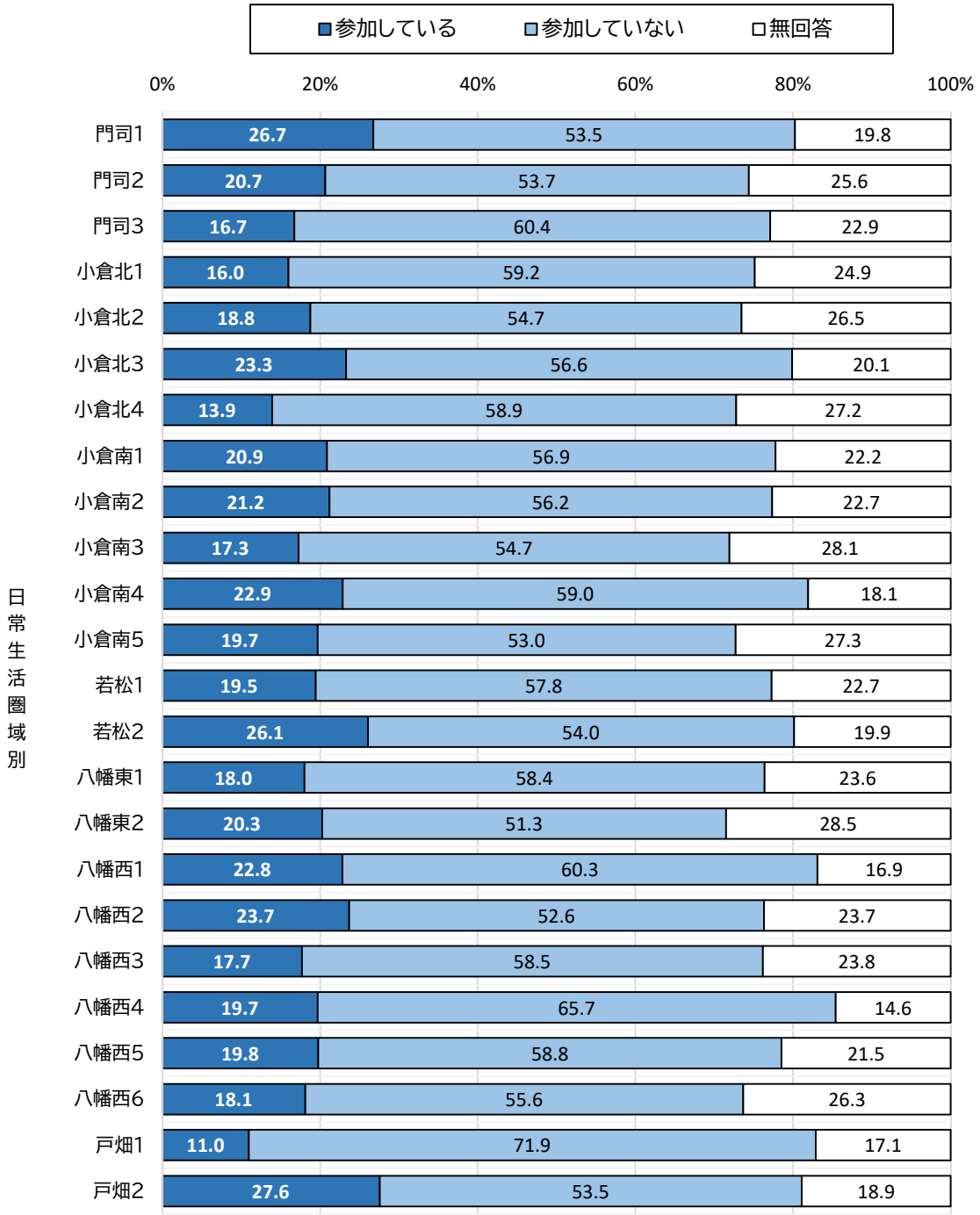


図 3-17-②　町内会・自治会への参加【日常生活圏域別】



（8）社会参加活動（⑧ 収入のある仕事）

問5-Q1-⑧　　収入のある仕事をしていますか。

「収入のある仕事をしている」と回答した割合は、

- ■ 全体では、11.3%となっている。
- ■ 一般・要支援別にみると、一般高齢者が 19.4%、要支援高齢者が 2.8%で、一般高齢者が 16.6 ポイント高くなっている。
- ■ 性別にみると、男性が 16.1%、女性が 8.3%で、男性が 7.8 ポイント高くなっている。
- ■ 年齢別にみると、年齢層が上がるにつれて割合が急速に低くなる傾向にある。
  - ・65～69 歳が 31.2%で、最も高くなっている。
  - ・前期高齢者が 21.9%、後期高齢者が 4.0%となっている。

図 3-18-①　収入のある仕事【全域】

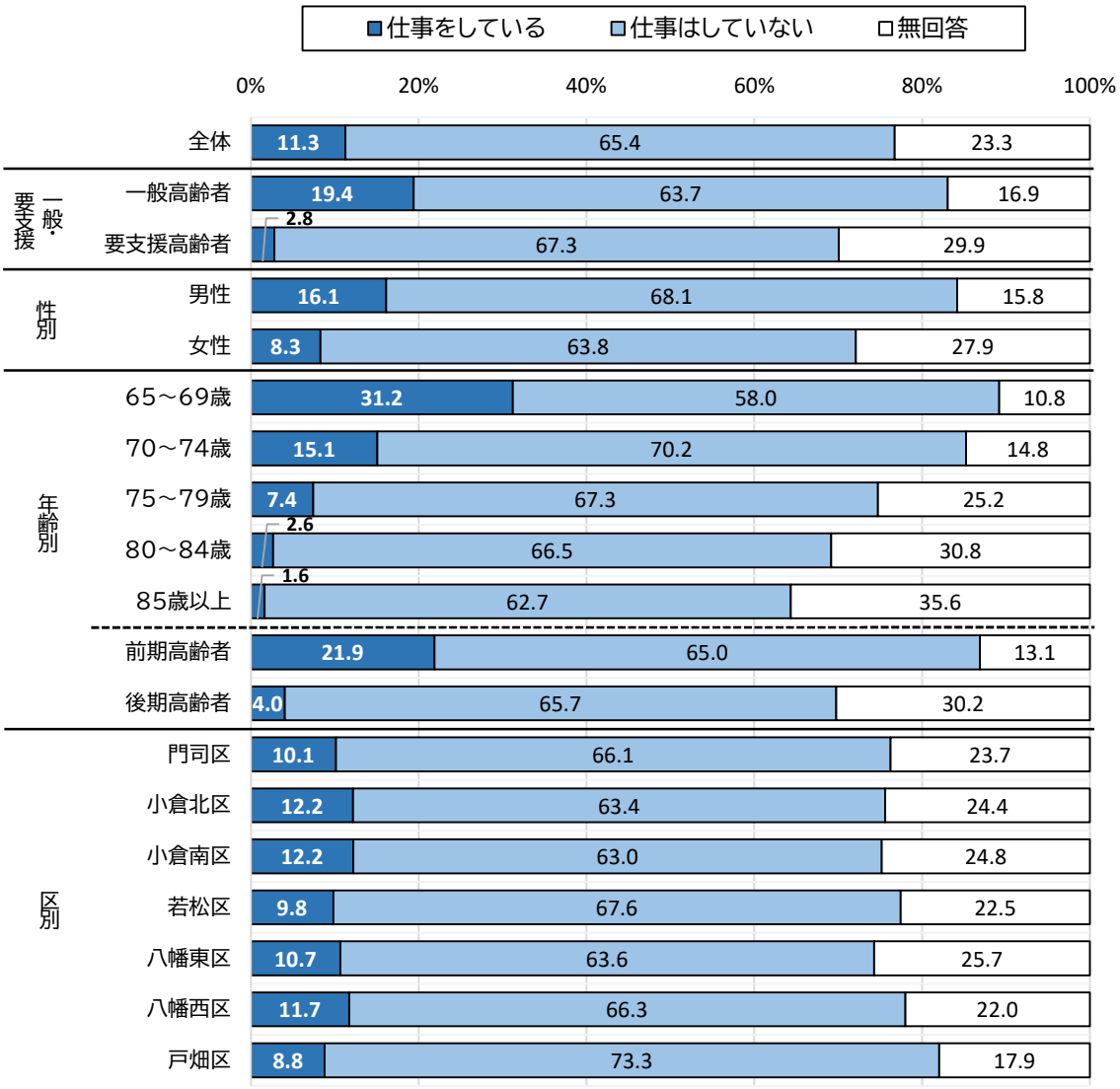
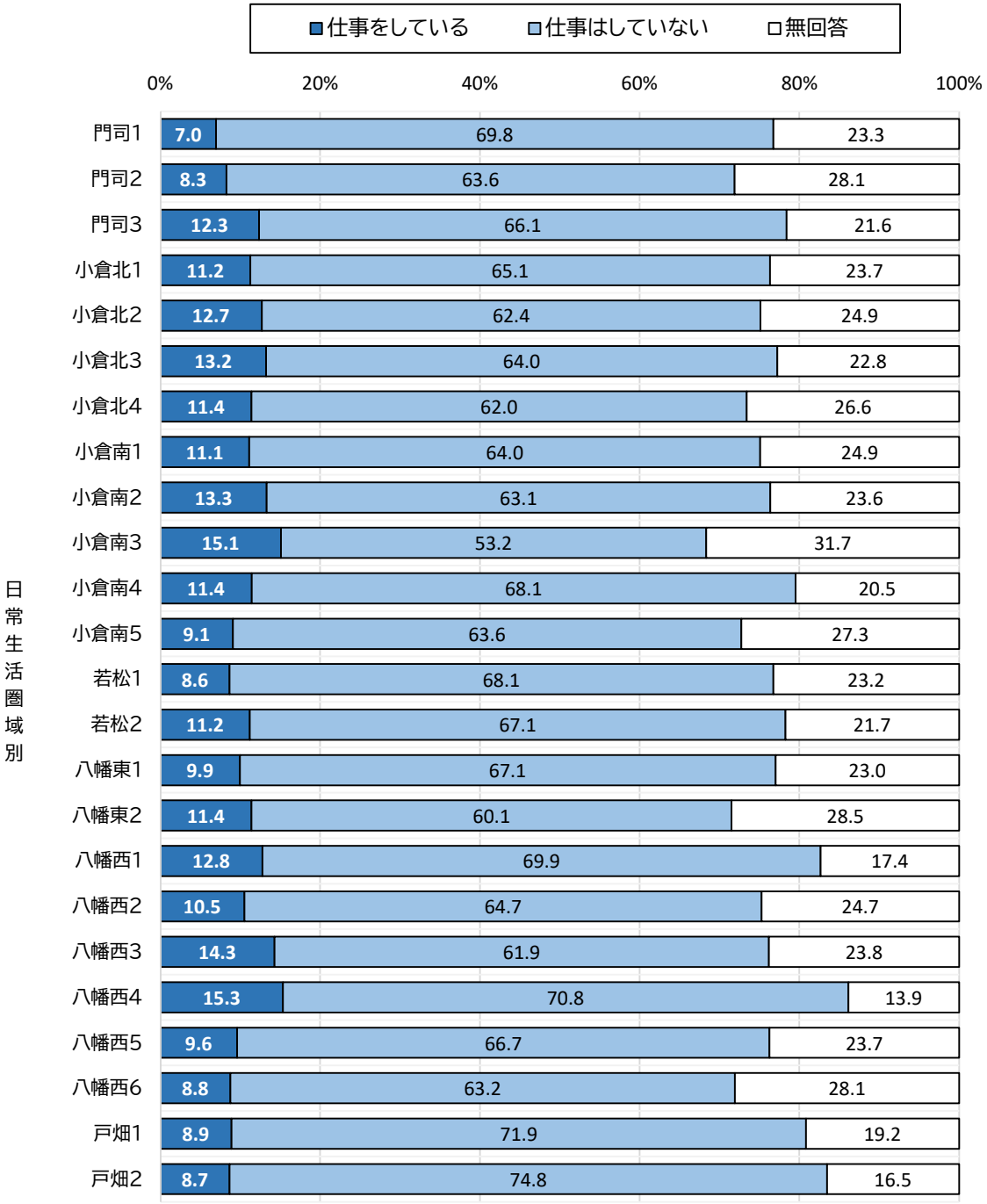


図 3-18-②　収入のある仕事【日常生活圏域別】



（9）地域づくりへの参加意向（参加者として）

問5-Q2	地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか。

「地域づくりに参加者として参加の意向がある」と回答した割合は、

- ■ 全体では、42.6%となっている。
- ■ 一般・要支援別にみると、一般高齢者が 47.6%、要支援高齢者が 37.5%で、一般高齢者が 10.1 ポイント高くなっている。
- ■ 性別にみると、男性が 42.5%、女性が 42.7%で、大きな差はみられない。
- ■ 年齢別にみると、75～79 歳までは大きな差はみられないが、80～84 歳からは年齢層が上がるにつれて割合が低下する傾向にある。
  - ・65～69 歳が 47.9%で、最も高くなっている。
  - ・前期高齢者が 47.6%、後期高齢者が 39.2%となっている。

図 3-19-①　地域づくりへの参加意向（参加者として）【全域】

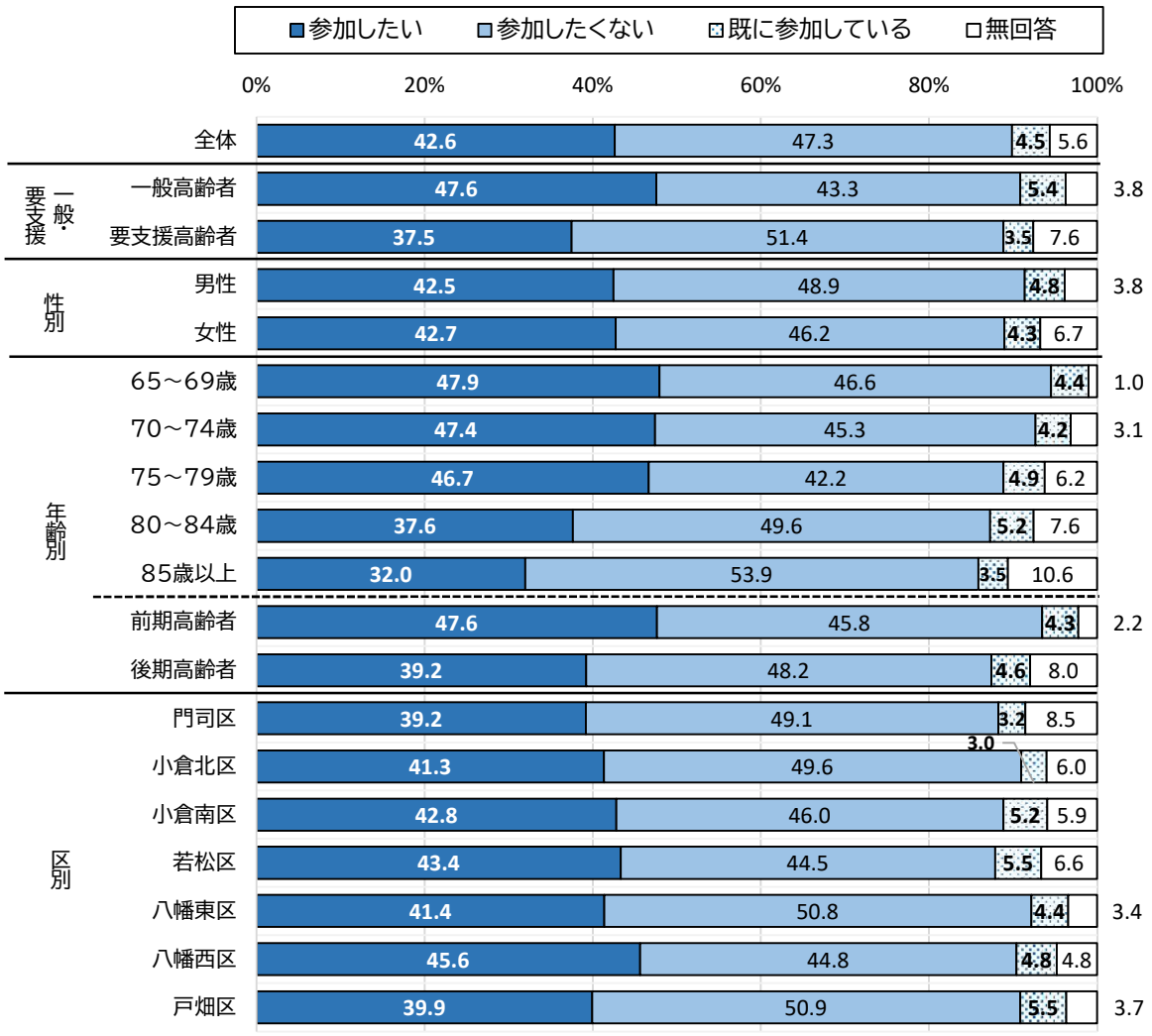
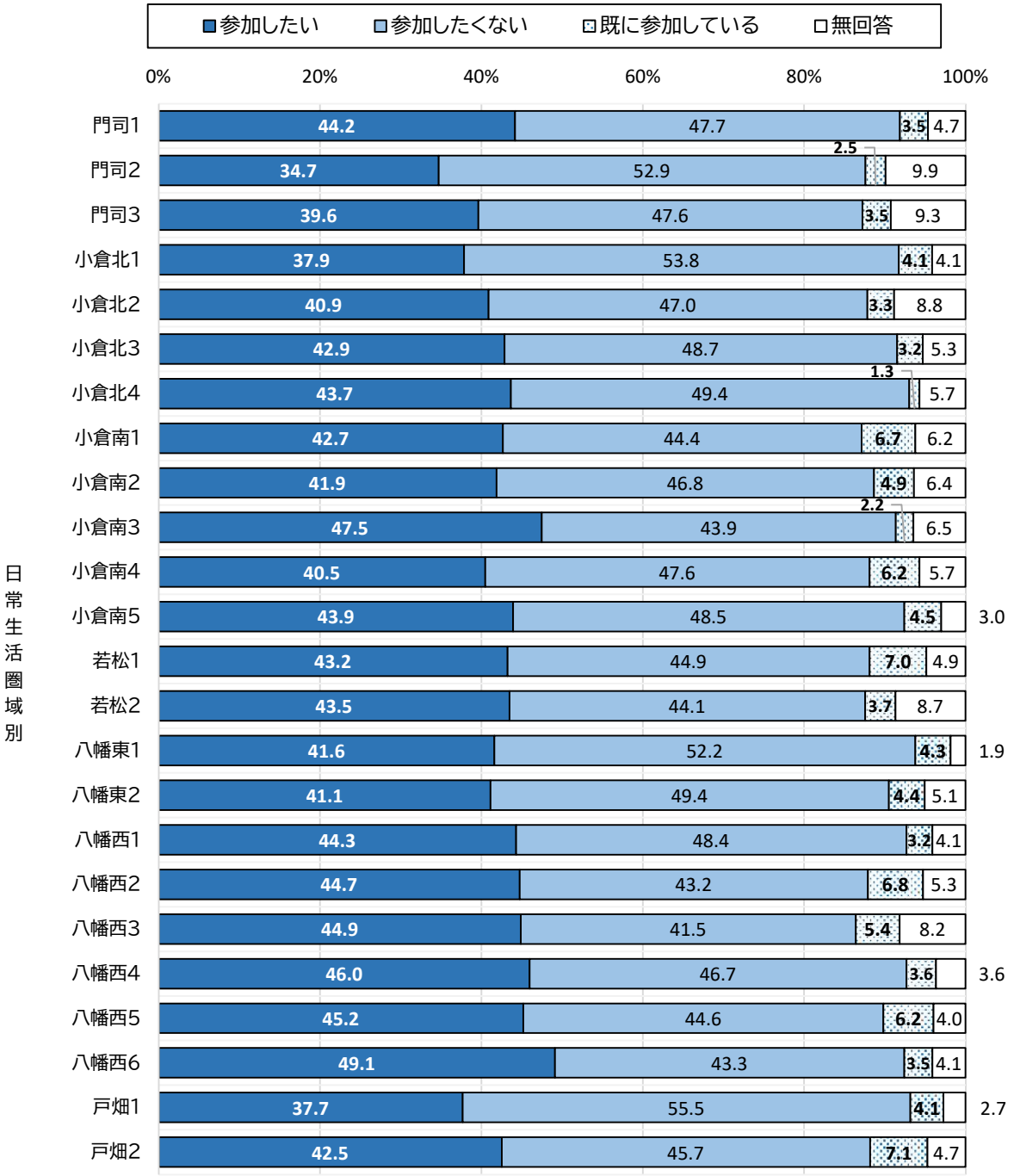


図 3-19-②　地域づくりへの参加意向（参加者として）【日常生活圏域別】



（１０）地域づくりへの参加意向（企画・運営（お世話役）として）

問５-Ｑ３	地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営（お世話役）として参加してみたいと思いますか。

「地域づくりに企画・運営（お世話役）として参加の意向がある」と回答した割合は、

- ■ 全体では、22.3%となっている。
- ■ 一般・要支援別にみると、一般高齢者が 26.2%、要支援高齢者が 18.2%で、一般高齢者が 8.0 ポイント高くなっている。
- ■ 性別にみると、男性が 24.4%、女性が 21.0%で、男性が 3.4 ポイント高くなっている。
- ■ 年齢別にみると、75～79 歳までは大きな差はみられないが、80～84 歳からは年齢層が上がるにつれて割合が低下する傾向にある。
  - ・65～69 歳が 26.0%で、最も高くなっている。
  - ・前期高齢者が 25.6%、後期高齢者が 20.1%となっている。

図 3-20-①　地域づくりへの参加意向（企画・運営として）【全域】

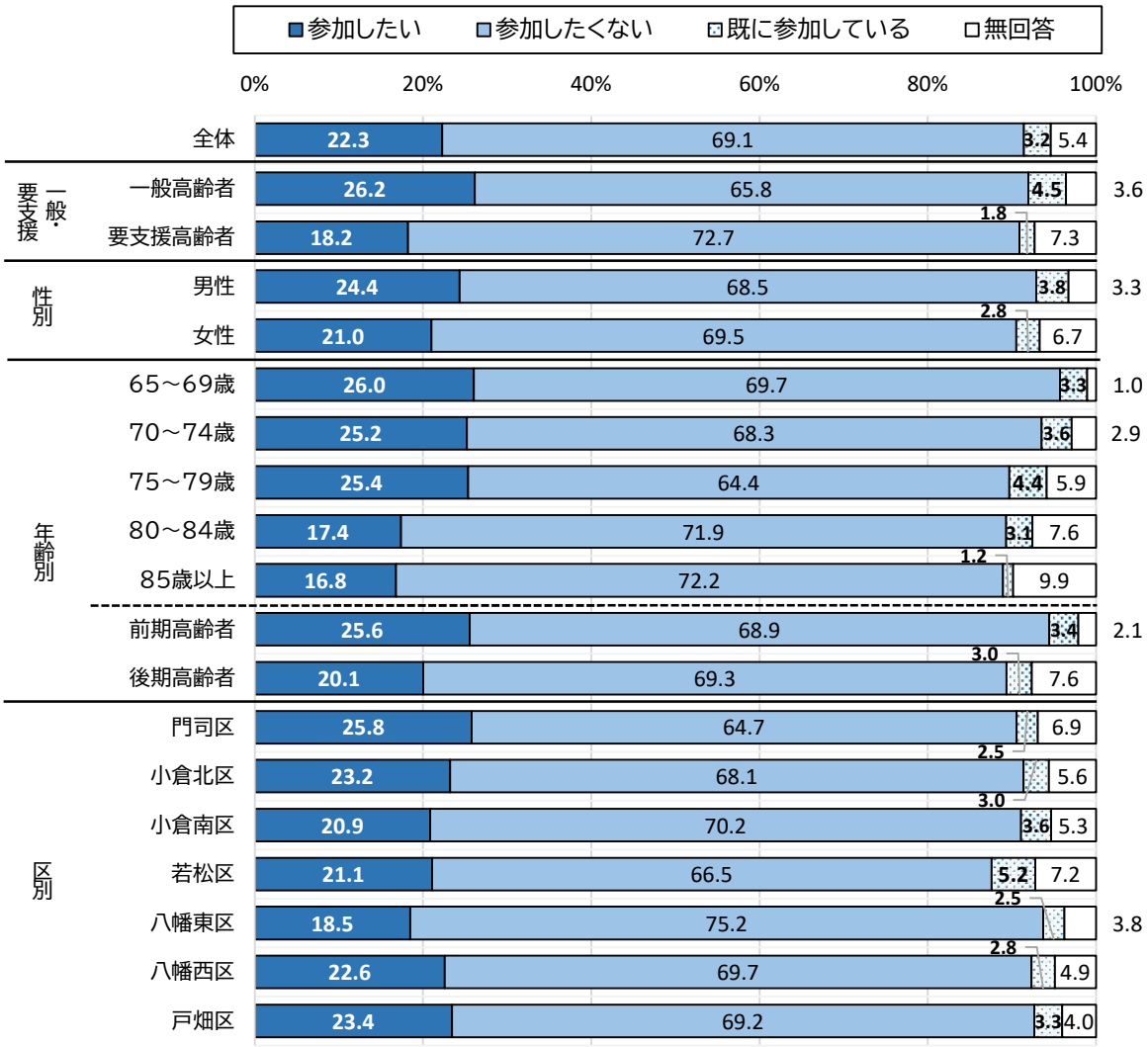
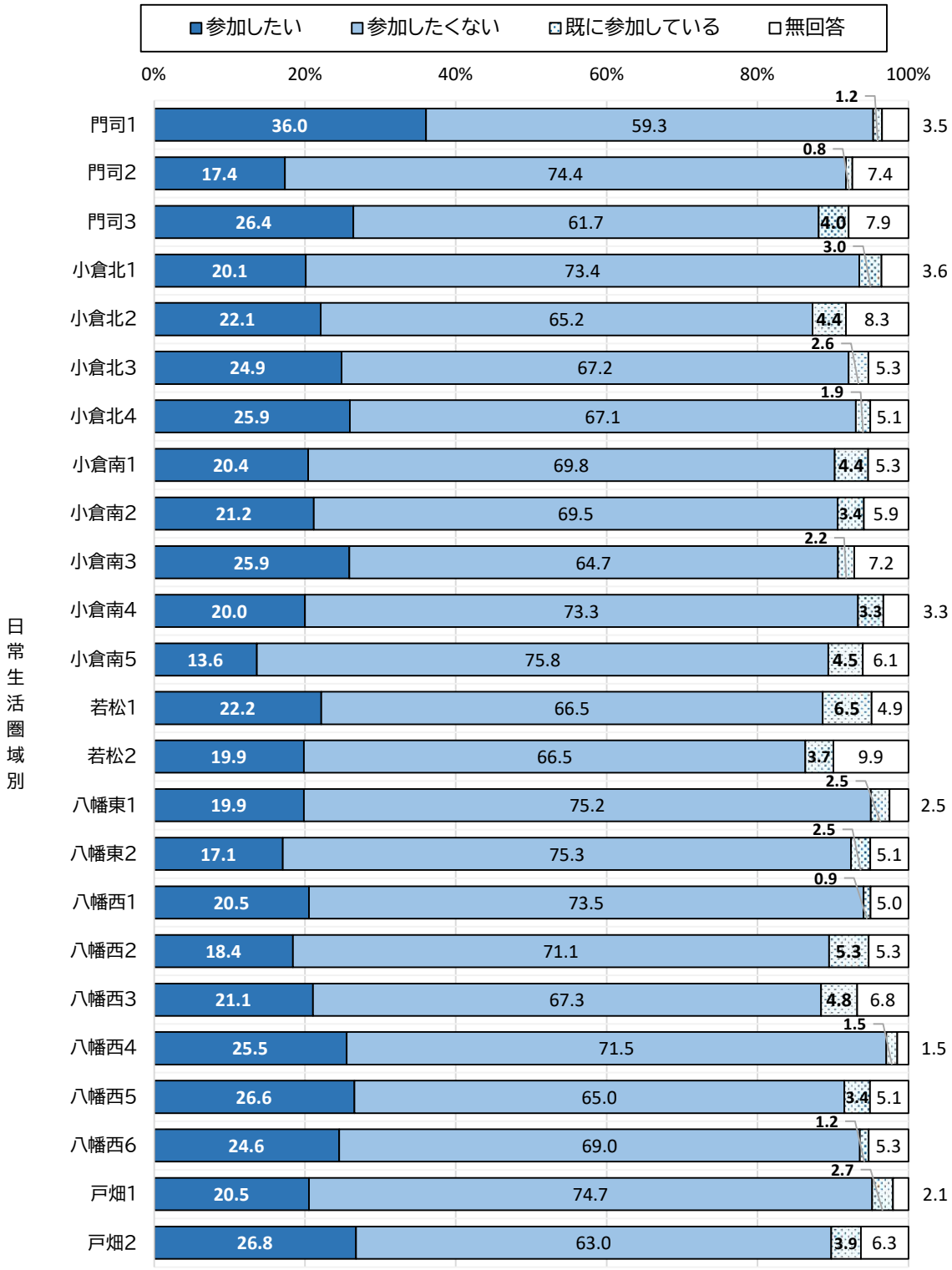


図 3-20-②　地域づくりへの参加意向（企画・運営として）【日常生活圏域別】



5．たすけあいについて

(1) 心配事や愚痴（ぐち）を聞いてくれる人

問6-Q1　　心配事や愚痴を聞いてくれる人がいますか。

「心配事や愚痴を聞いてくれる人がいる」と回答した割合は、

- ■ 全体では、92.5%となっている。
- ■ 一般・要支援別にみると、一般高齢者が 93.6%、要支援高齢者が 91.3%で、大きな差はみられない。
- ■ 性別にみると、男性が 90.4%、女性が 93.7%で、大きな差はみられない。
- ■ 年齢別にみると、年齢層ごとに大きな差はみられない。
  - ・65～69 歳が 93.0%で、最も高くなっている。
  - ・前期高齢者が 92.6%、後期高齢者が 92.4%となっている。

図 3-21-①　心配事や愚痴を聞いてくれる人【全域】

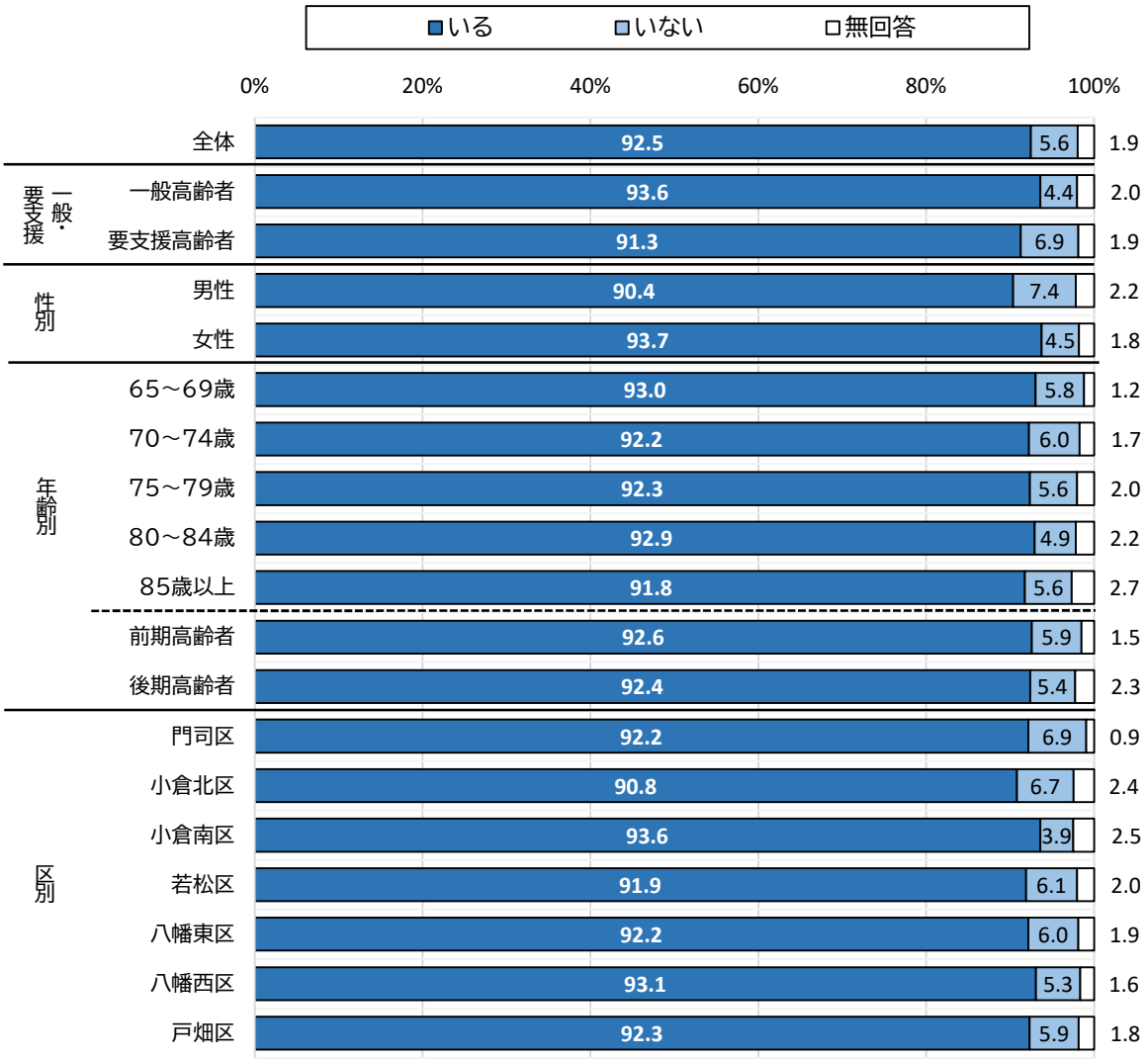
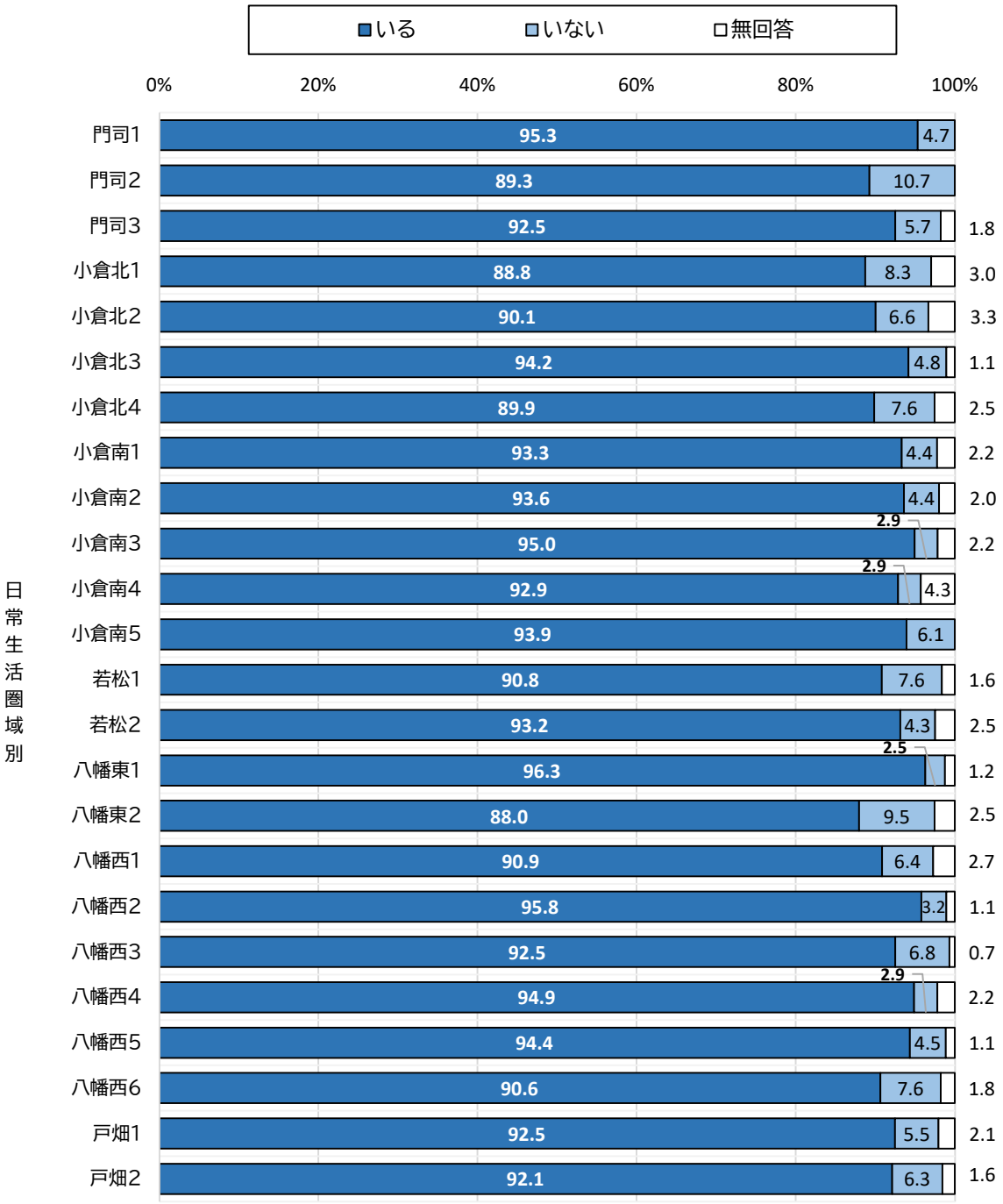


図 3-21-②　心配事や愚痴を聞いてくれる人【日常生活圏域別】



（2）心配事や愚痴（ぐち）を聞いてあげる人

問6-Q2　　心配事や愚痴を聞いてあげる人がいますか。

「心配事や愚痴を聞いてあげる人がいる」と回答した割合は、

- ■ 全体では、86.2%となっている。
- ■ 一般・要支援別にみると、一般高齢者が 90.0%、要支援高齢者が 82.1%で、一般高齢者が 7.9 ポイント高くなっている。
- ■ 性別にみると、男性が 84.7%、女性が 87.0%で、大きな差はみられない。
- ■ 年齢別にみると、75～79 歳までは大きな差はみられないが、80～84 歳からは年齢層が上がるにつれて割合が低下する傾向にある。
  - ・65～69 歳が 89.9%で、最も高くなっている。
  - ・前期高齢者が 89.6%、後期高齢者が 83.8%となっている。

図 3-22-①　心配事や愚痴を聞いてあげる人【全域】

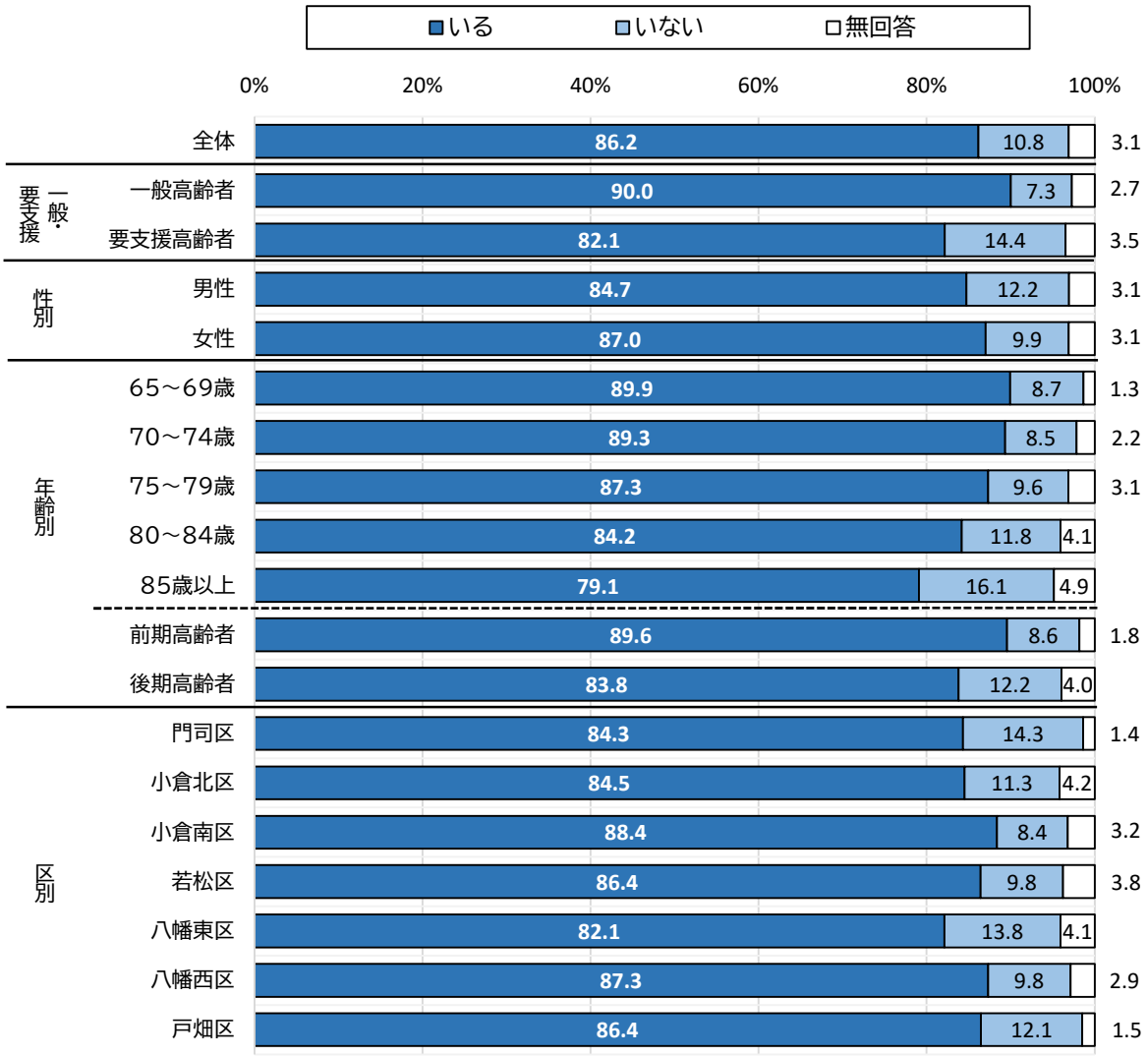
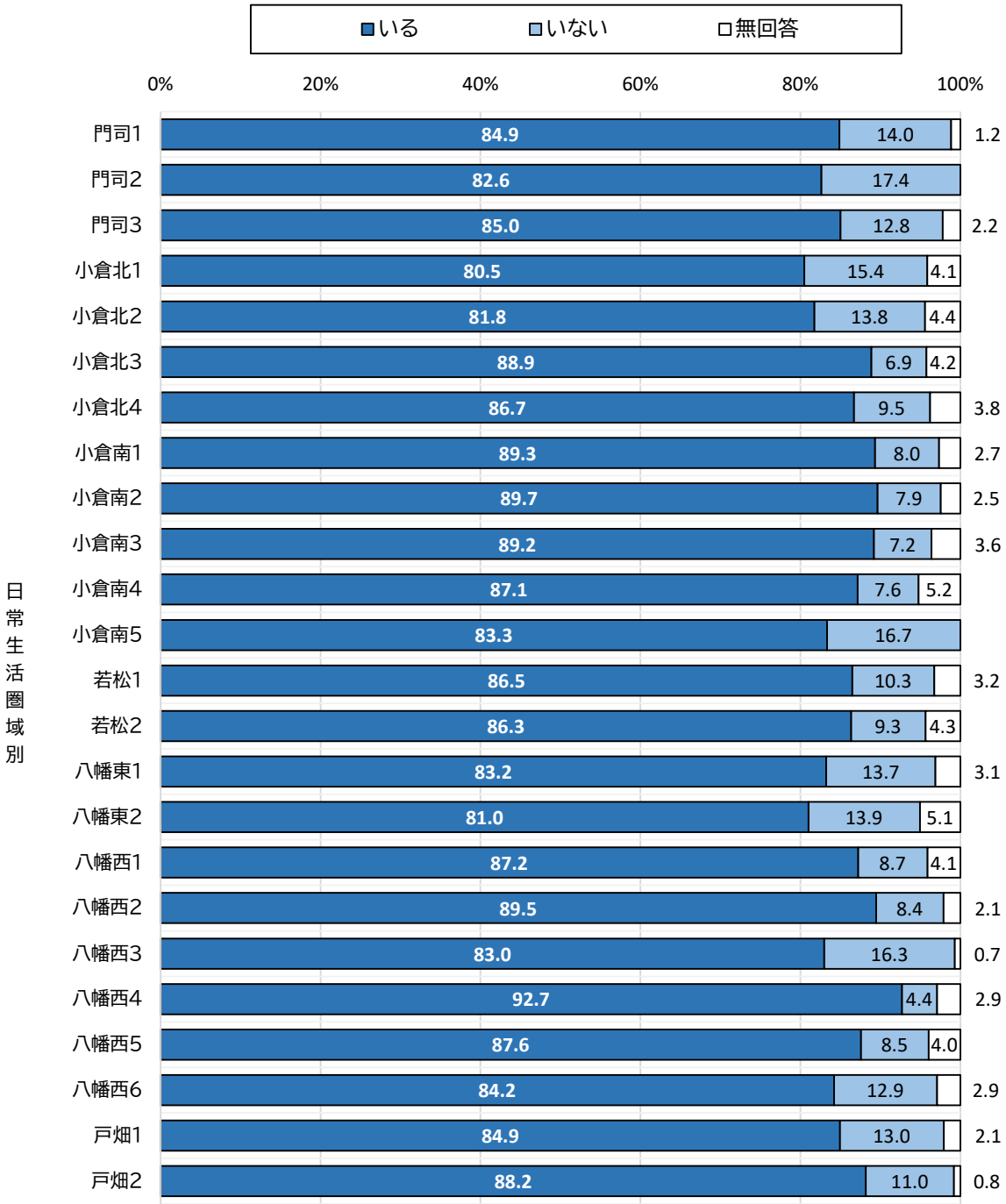


図 3-22-②　心配事や愚痴を聞いてあげる人【日常生活圏域別】



（3）看病や世話をしてくれる人

問6-Q3　　あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人がいますか。

「看病や世話をしてくれる人がいる」と回答した割合は、

- ■ 全体では、89.7%となっている。
- ■ 一般・要支援別にみると、一般高齢者が 90.5%、要支援高齢者が 85.2%で、一般高齢者が 5.3 ポイント高くなっている。
- ■ 性別にみると、男性が 88.7%、女性が 87.4%で、大きな差はみられない。
- ■ 年齢別にみると、年齢層ごとに大きな差はみられない。
  - ・65～69 歳が 88.8%で、最も高くなっている。
  - ・前期高齢者が 88.2%、後期高齢者が 87.8%となっている。

図 3-23-①　看病や世話をしてくれる人【全域】

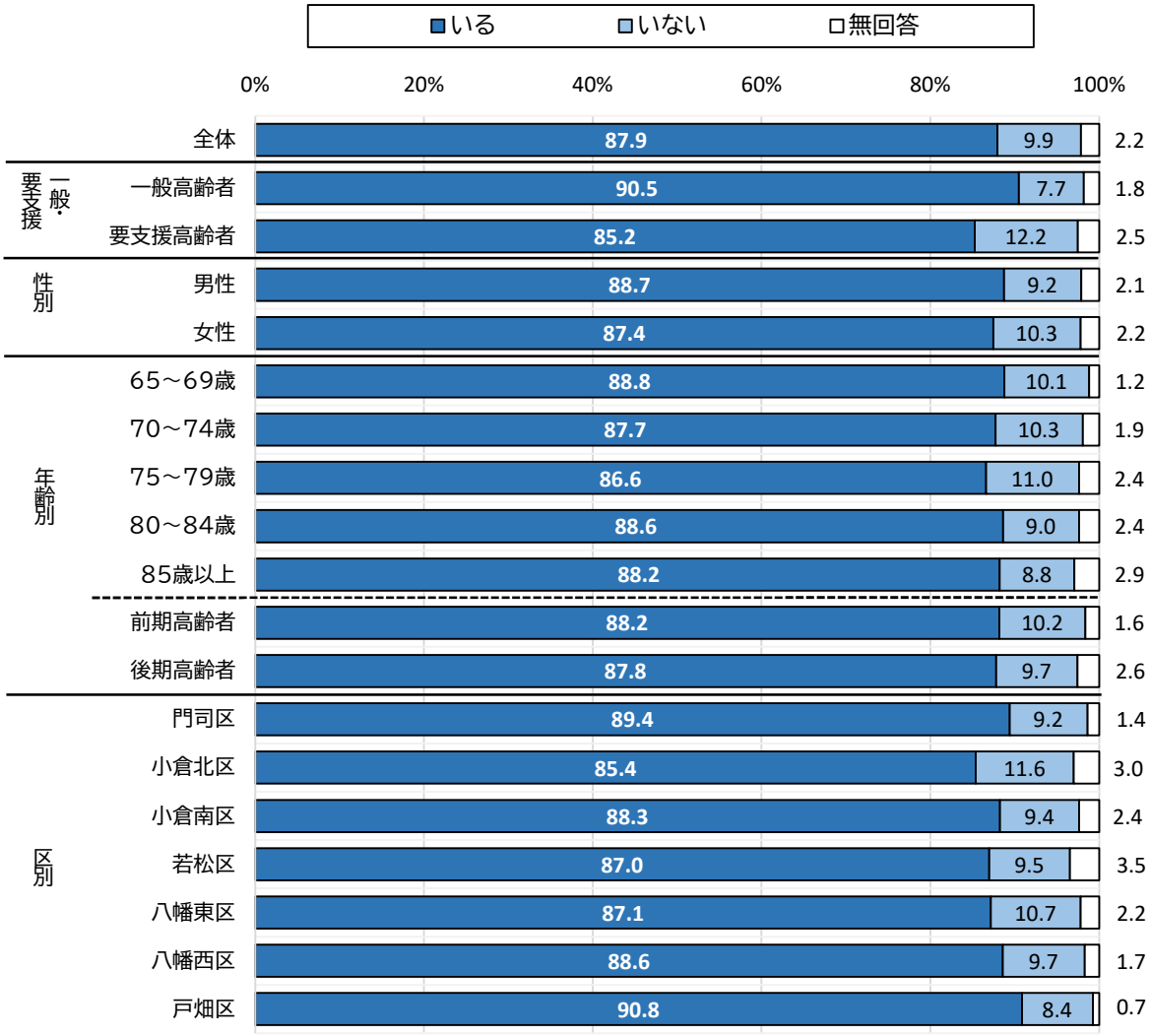
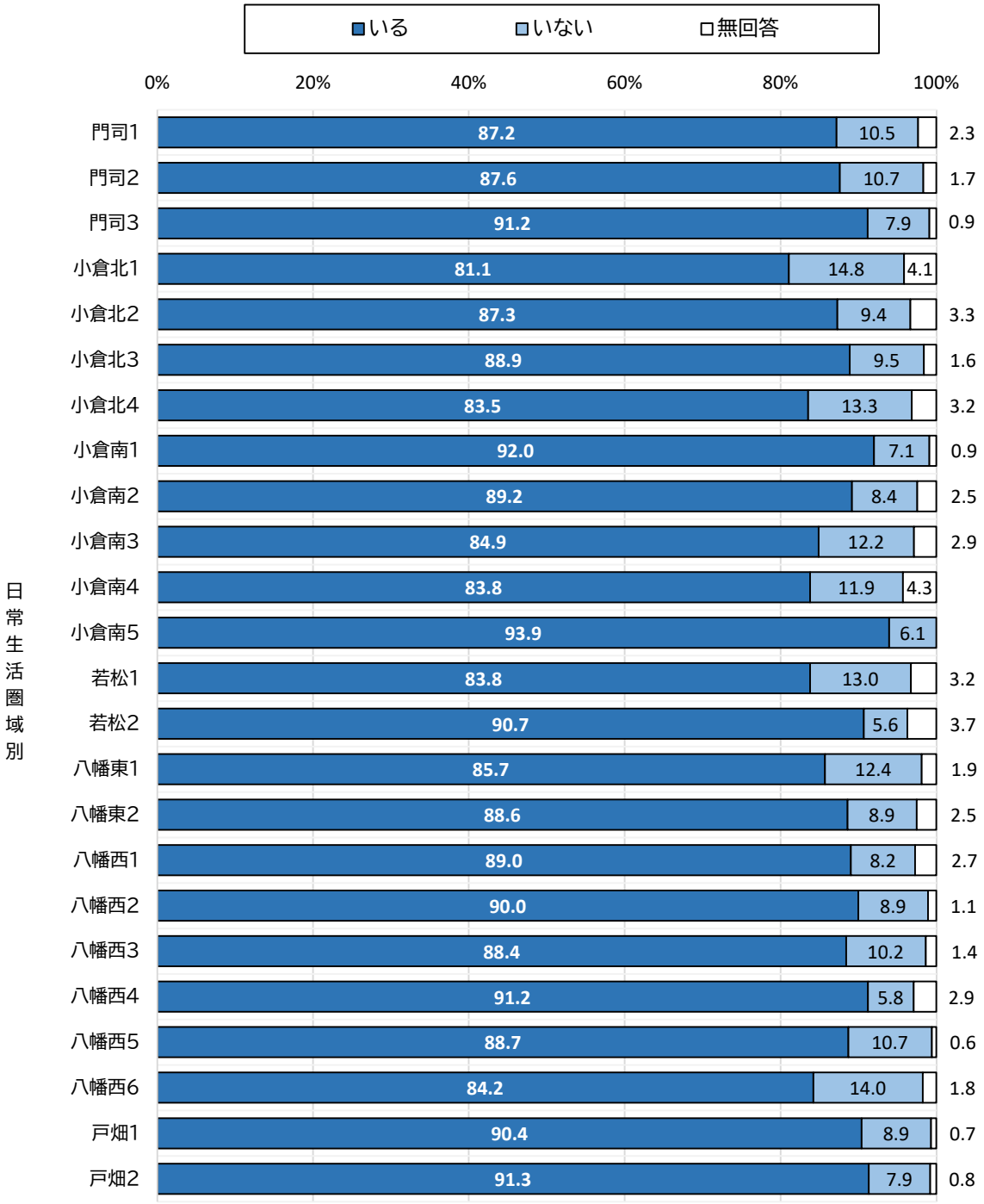


図 3-23-②　看病や世話をしてくれる人【日常生活圏域別】



（4）看病や世話をしてあげる人

問6-Q4　　看病や世話をしてあげる人がいますか。

「看病や世話をしてあげる人がいる」と回答した割合は、

- ■ 全体では、70.7%となっている。
- ■ 一般・要支援別にみると、一般高齢者が 80.4%、要支援高齢者が 60.7%で、一般高齢者が 19.7 ポイント高くなっている。
- ■ 性別にみると、男性が 76.2%、女性が 67.4%で、男性が 8.8 ポイント高くなっている。
- ■ 年齢別にみると、年齢層が上がるにつれて割合が高まる傾向にある。
  - ・65～69 歳が 82.8%で、最も高くなっている。
  - ・前期高齢者が 80.4%、後期高齢者が 64.1%となっている。

図 3-24-①　看病や世話をしてあげる人【全域】

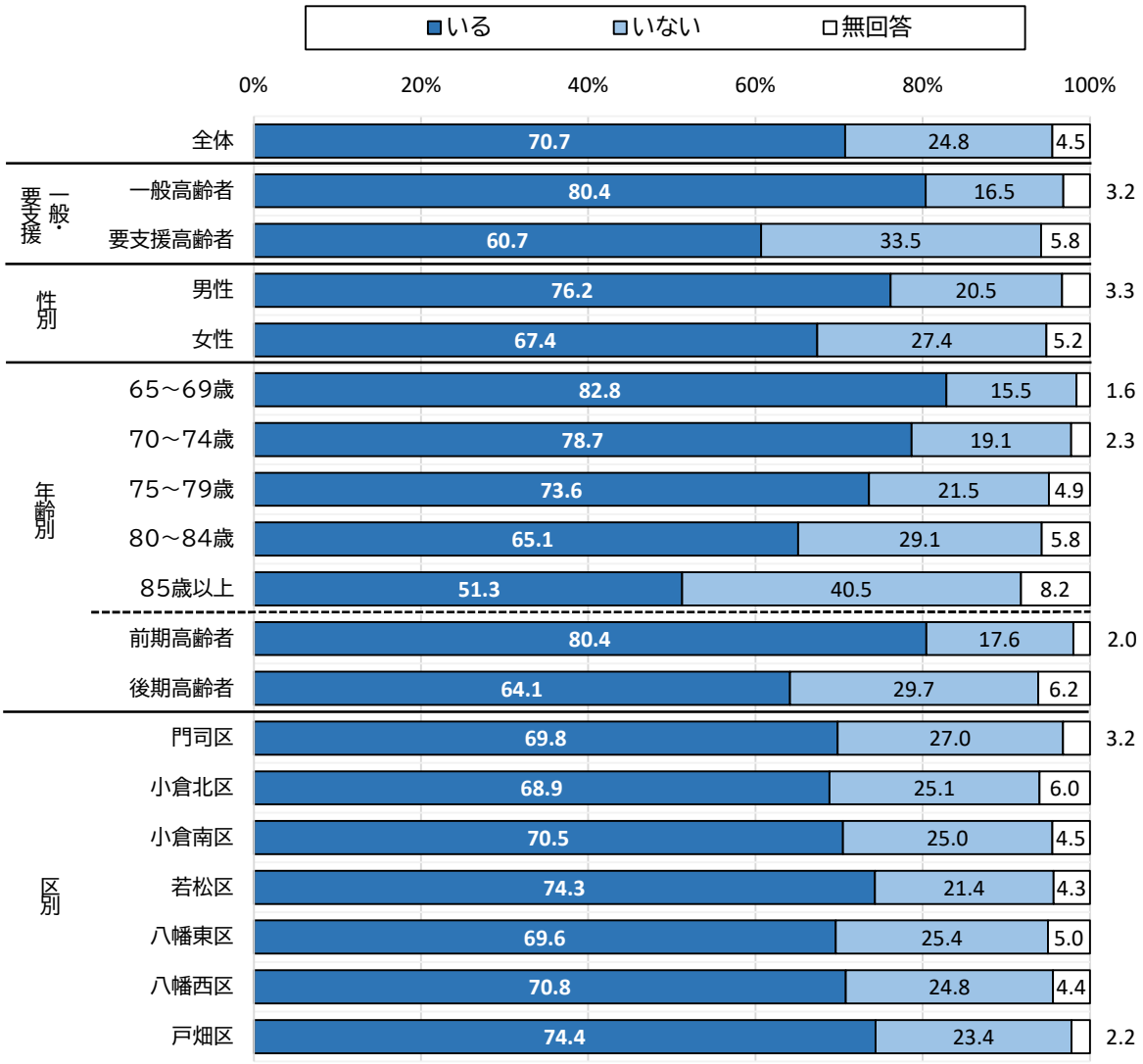
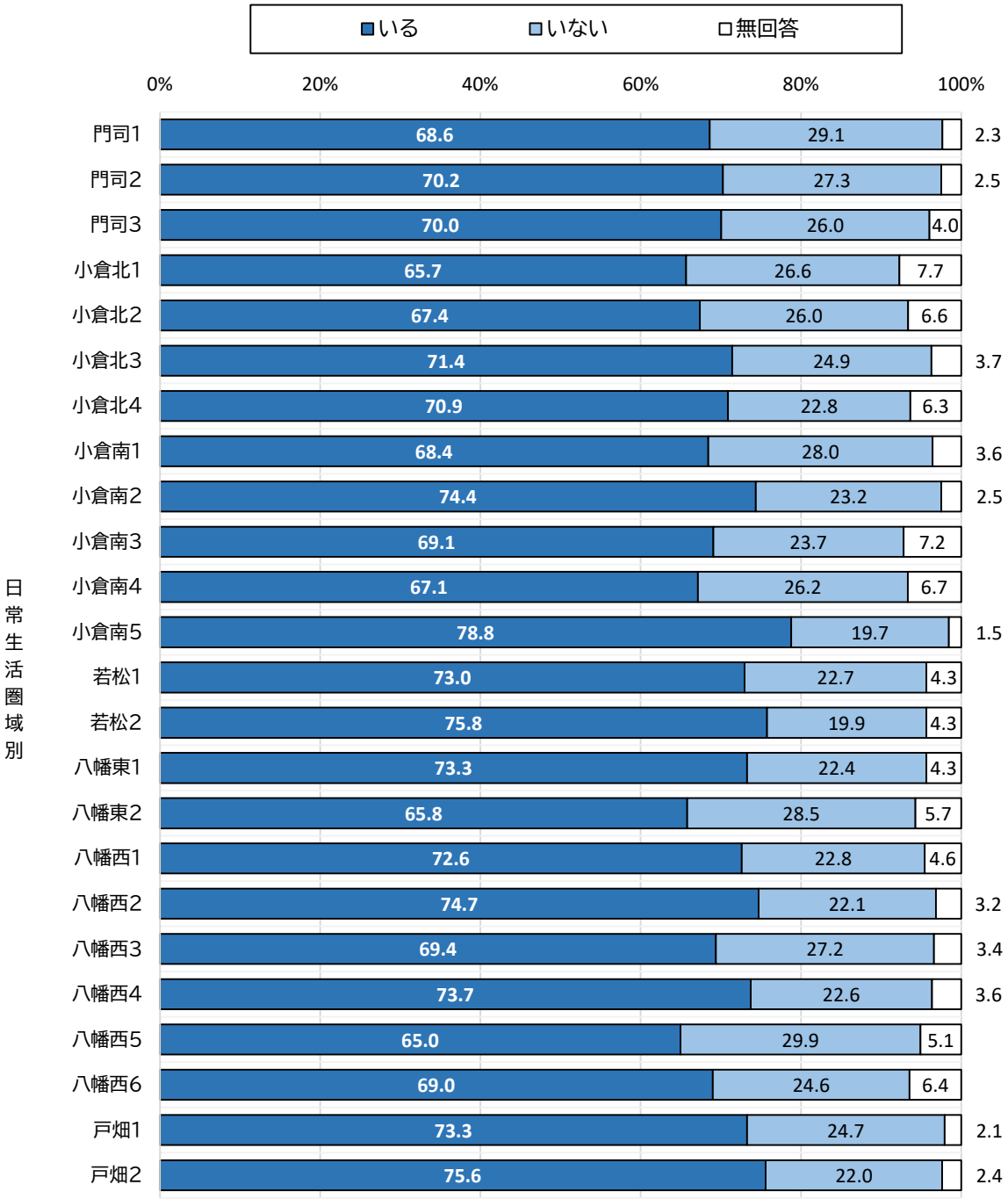



図 3-24-②　看病や世話をしてあげる人【日常生活圏域別】